

生活工房

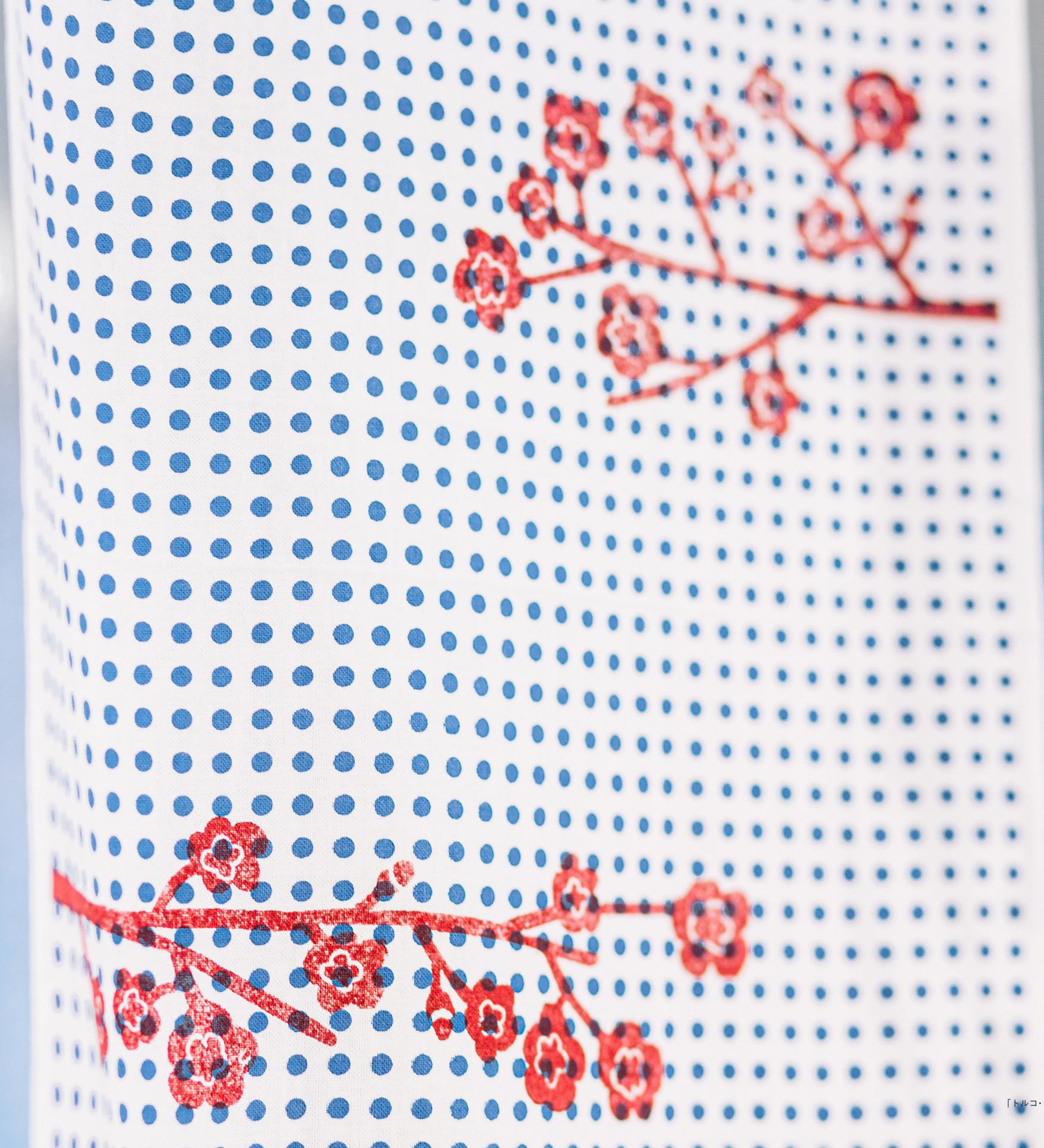
アニュアルレポート2019

Lifestyle Design Center Annual Report 2019

April 2019 - March 2020

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー
TEL 03-5432-1543 (代表)
URL <https://www.setagaya-ldc.net>

世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center



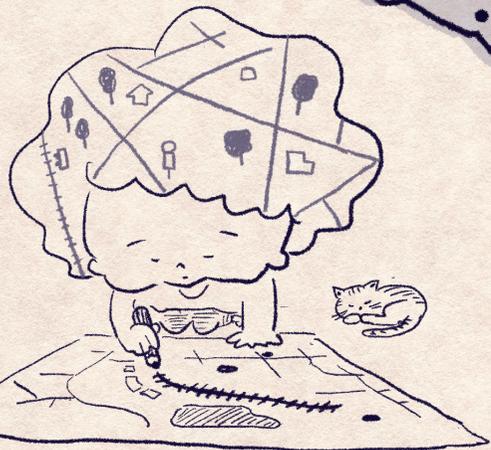
「トルコ・トカットの木版(バスク)」展より(撮影:田中由起子)

Lifestyle Design Center
Annual Report 2019
April 2019 - March 2020

生活工房
アーニユアルレポート2019

わたしの思い出と
世田谷

WHERE?



しまおまほの 世田谷くるくる クワニクワ

2019年秋、生活工房ギャラリーで家族の記憶と記録にまつわる展覧会を行ったエッセイストのしまおまほさん。このアニュアルレポートでは、しまおさんが2019年度に生活工房で行われたプログラムのキーワードをもとに、長年暮らしてきた世田谷区を舞台にした記憶の旅へ。

招き猫で知られる豪徳寺界限で育ったしまおさん。近所には、たくさんの思い出が詰まった「世田谷線」や「ワンピース」姿の姉妹とお祭りに行った世田谷八幡、そして「夏の子ども」が噴水で戯れる世田谷区役所。懐かしい「匂い」のする馬車公苑も馴染みの場所。

自転車で通っていた上野毛の大学の中庭に「すわり」、語らったあの日。多摩川からの帰り道、国分寺崖線の急坂を上り切った「やる気と元気」。

羽根木公園の「プレーパーク」で息子と焚き「火」しているとプレーバックする、祖父母宅での火傷。焼き立ての「トースト」には、「家族」のレシピがあり、そんな食パンが見つない奥沢と豪徳寺……。

まさに、しまお版「世田谷クワニクワ」といえる全10編です。

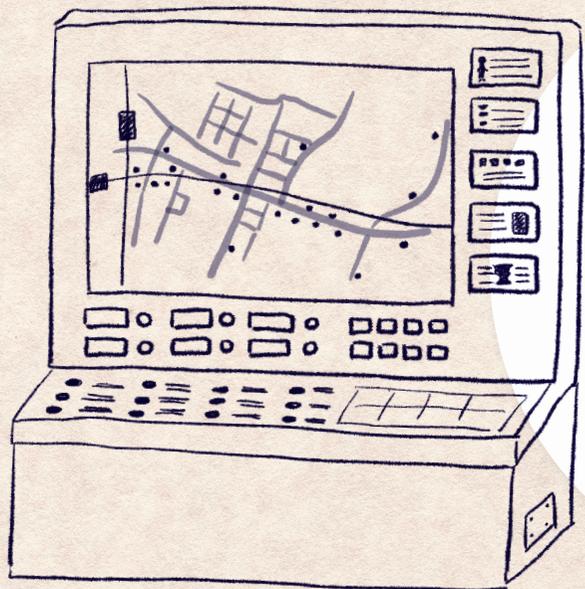
地図板とスイッチと ロボット

#分身ロボット OriHime ▶P50

#豪徳寺駅

#綺麗なお姉さんがコッソリ

なまがこもなだつたよ
よつたよ...



生まれて一年経たずに母方の祖父母が暮らす豪徳寺へ父と母とわたしの3人で越した。祖父母の家から歩いて数分の場所にある洋館。すぐ裏手が豪徳寺で、部屋の大きな窓から墓地が見えた。

その共同住宅の隣の部屋には小中学生の3人兄弟がいる5人家族、敷地内の別棟に小学生の兄とわたしより2つ上の妹のいる4人家族が暮らしていた。生まれて初めて知る「よその家」。

夜になると聞こえる兄弟ゲンカの声、味も見た目も母のものはまったく違うカレー、お風呂やテレビの時間……。違うしぎたり、聞いたことのない呼び名、初めてのルール、そしてその家独特の匂い。幼稚園で仲良しになったエリちゃんは、洋服も下着も姉妹で同じ物を着回していた。一緒に小学校へ通っていた近所のノンちゃんの家は家族の中でおばあちゃんが一番偉くて威厳のある存在だった。

壁を一枚隔てた部屋で、すぐ隣の家で、同じ町内で、まるで惑星が違うみたいな異文化の家族が日常を送っていた。

いま、息子と2人暮らし。お風呂は食事の前に入っている。寝る前に何冊も絵本を読む。息子はわたしを「カーカ」と呼ぶ。

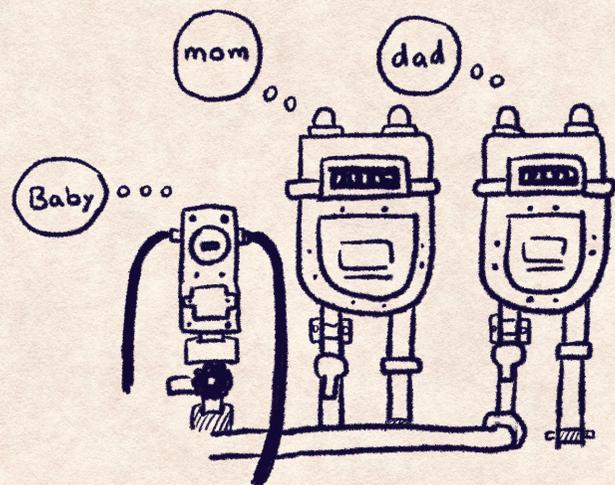
わたしがまだ小さくて、父と母と3人家族だった頃。あの頃とはまた別の習慣が自然と出来て、それをなぞりながらわたしたちは生活している。かつていた惑星から離れて、少し寂しい気持ちもするけれど……居心地の良い小さな、楽しい惑星でありたいと思っている。

洋館と 家族と 惑星

#家族って ▶P28

#家族という惑星

#豪徳寺



「がスターがこんな風に並んでいると、親子かなって田舎」

豪徳寺駅がまだ高架複雑々線になる前。改札口の横に大きな商店街の地図板があった。この地図板、地図の下に店の名前とスイッチがあった。この地図板、地図、スイッチを押すと店のある場所のランプが赤く光る仕組みになっていた。

これが子どもたちによく人気で。大抵その地図板の前で小さな子たちがスイッチの奪い合いをしていた。本屋、銀行、文房具屋……。

ただ押して光るだけの物なのに、もう何度も遊んでいるのに、駅へ行くと吸い寄せられるように地図板の前に立ち、スイッチを押して、スイッチの塗料ははがれていた。実は子どもだけでなく大人だって、アレが大好きだった。

待ち合わせの時など、目に入るとどうしても我慢できなくて。スーツ姿のサラリーマン、柔道着袋を肩に担いだ国士館の大学生、綺麗なお姉さんが地図板の前に立ちコッソリ。スイッチを1、2回押して、その場を去ったりしていた。

その地図板はもはや地図というより、駅の利用者を癒すロボットのような役割を担っていたのではないか。

死んだ人には天国で会えるというけれど、今はなき地図板のアイツも天国にいるのだろうか。アイツが天国で待っていてくれたら、かなり嬉しい。

#夏の子ども ▶P40-43

#世田谷区役所

#子どもの楽園

水に三谷びたり、かくれんぼしたり...
区役所は楽しい遊び場だった。



庭にタライを出してパシャパシャ...と、やるのだ。
今も区役所の噴水池の横を通ると、思い切りの悪い自分の原点を思い出し、ちよっとだけ苦しい気持ちになるのだ。

30年以上前、夏になると世田谷区役所前の噴水でこうしてたくさん裸の子どもたちが涼をとっていた。多い時は数十人。高低差のある横長の噴水池が子どもだけの楽園に変わる。行事で集合をしたり、用事で寄った時も、隙あらば服を脱ぎ捨て飛び込んでしまう。そんな時もわたしは濡れるのがイヤで横で立っているだけ。

小さかったわたしはその輪にどうしても入ることができず、いつも少し離れたところから眺めていた。クラスメイトのしいちゃんやアカネちゃんは、スカートの裾をパンツに入れ、かぼちゃパンツ姿でザブザブと水に入っていくのに。さらに小さな男の子も女の子もみんなが素っ裸で水しぶきをあげ水の中を走って、ジャンプして。大人の背丈くらいの高さに水がフワッと吹き上がり、子どもたちは見えなくなるほど。その度、冷たい水が夏の日差しで熱くなったアスファルトに跳ね返り、スーツ姿の大人たちはそれから少し距離をとって歩いていた。



水に三谷びたり、かくれんぼしたり...
区役所は楽しい遊び場だった。
思ってたかりの悪いわたし

世田谷線と思い出と 鯛焼き

テレビドラマのワンシーンで主人公が歩くのは、覚えのある紫陽花が咲く線路脇。大好きな漫画の主人公が住む家は、緑の電車を見下ろすマンション。

「...世田谷線だ！」

時々こんな風に見かけることがあると、友だちをテレビや雑誌で発見したようにはしゃいでしまう。最寄りの私鉄

じゃあ、なんか違う。近所の店でも...果たしてここまで嬉しいかな？

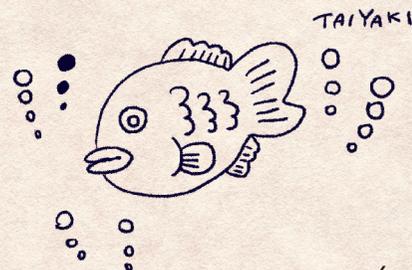
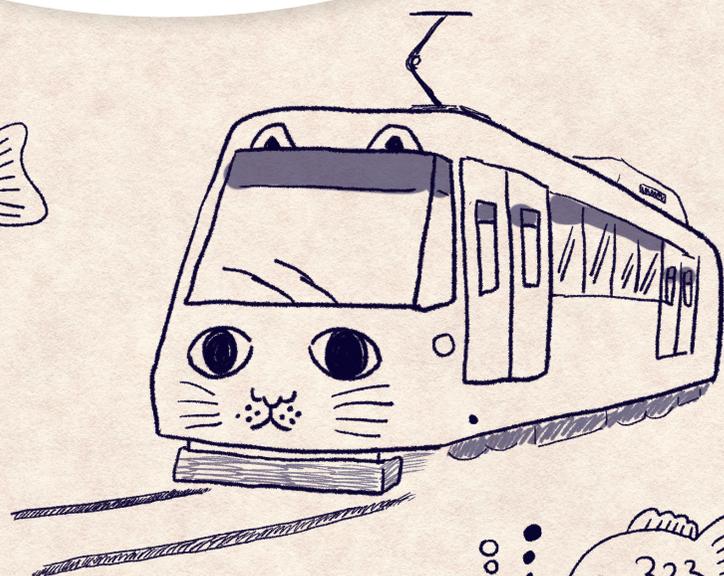
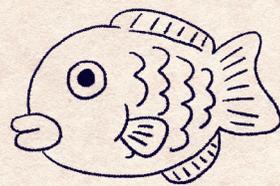
そう、世田谷線は友だちのような電車。顔を見ると、ホッとして「ただいま」を言いたくなる電車。

釣り堀デートをした三軒茶屋、オマケみたいに小さくて可愛い西太子堂の駅、若林から環七を渡る瞬間は何度乗ってもワクワク。松陰神社前駅で待ち合わせた大雨の日の思い出、世田谷駅近くにあった劇団の稽古場の前ではファンだった劇団員をバレンタインの日に待ったっけ...。肉まんを買おう上町、世田谷八幡のお祭りが毎年楽しみな宮の坂、豪徳寺駅までの細い道が楽しい山下、車窓から見える公園をついジッと眺めてしまう松原、駅を見下ろす下高井戸シネマの上に住むのが夢...

世田谷線は、まるで頭から尻尾までギュッとアッコが詰まった鯛焼きみたいだ。そういえば、下高井戸といえは鯛焼き、三軒茶屋駅は今川焼が隠れた名物。

今日も走り続けるわたしの友だち、世田谷線。

まぬき猫の世田谷線は...
目取高ですネ!!



#世田谷線にのって ▶P21

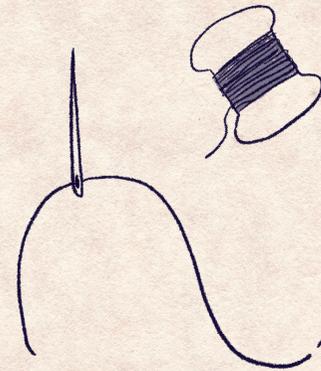
#世田谷線50周年

#三軒茶屋

#かつて釣り堀があった

お揃いのワンピースと 姉妹と叔母

#14歳のワンピース ▶P40
#お揃いコーデ
#世田谷八幡
#土俵がある



「お腹をこわす」と言われた、
ワンピースを
縫うときはなかなか縫えなかった……
縫うこともうななな……

幼稚園が一緒だったアンちゃんの家には、4畳間ほどの裁縫部屋があった。アンちゃんのお母さんは時々その部屋にこもり、アンちゃんと姉のリエちゃん、そして末っ子のソノちゃんにお揃いのバッグやティッシュケース、キュロックスカーテンなんかを縫う。そういえば、姉妹の持ち物……上履き入れや体育着袋から小さな筆入れまでお母さんの手作りだ。馴染みのない外国製のキルト生地。深い赤、茶色、くすんだ黄緑。どれも子どもの物にしては落ち着いた色合いで渋い柄ばかり。でも、アンちゃんのお家の知的な雰囲気にはピッタリで、姉妹にもよく似合っていた。聞けばアンちゃんのお姉ちゃんはドイツで生まれたという。

9月。姉妹はお揃いのワンピースを着ていた。小さな花の柄。袖はフレンチスリーブ、ウエストには腰紐が通されている。姉妹で同じ柄、同じデザイン。みんなで世田谷八幡のお祭りへ。大好きだったはずの浴衣を着たのに、なんだかお揃いのワンピースの方がキラキラしていて。手作り、羨ましいなあ。お姉ちゃんと妹、羨ましいなあ。

小学2年生になって、祖父母の住む鹿児島へ遊びに行くと叔母が白地に青い小花模様のワンピースを着ていた。用意されていたのはそれと同じ模様のワンピース。叔母とは28歳も違ったけれど、お揃いを着るとまるで一心同体、双子みたいな気分になって。路面電車が走る街を、手を繋いで歩いた。
あれ以来、お揃いって一度もしていない。これから先、着ることがあるかしら？ 着るとしたら、誰と……？
でも、もし機会があるなら。ワンピースに決まっている。お揃いといえ、それしかない。

石油ストーブの芯に火を灯すのも、蚊取り線香を焚くのも、花火も、お盆の送り火も。
「子どもは危ないから」

と、父が一步下がれの合図。でも、首を前に突き出して炎に見惚れてしまう。どうしてこんなに火って、惹きつけられるんだろう。まだ小学校上がったばかりの頃。新居に越したばかりの祖母を訪ねた。空の段ボールや不用品が庭に積み上げられていて、それを父がドラム缶で焼き払っていた。わたしもちよつとやらせて、と、ひとつ、ふたつ投げ入れているうち、興に乗ったわたしはつまずき、弾みで熱されたドラム缶に手をついてしまった。皮膚はみるみる赤くなり、掌の半分に水膨れが。それ以来、父は火の取り扱いにとっても慎重になった。

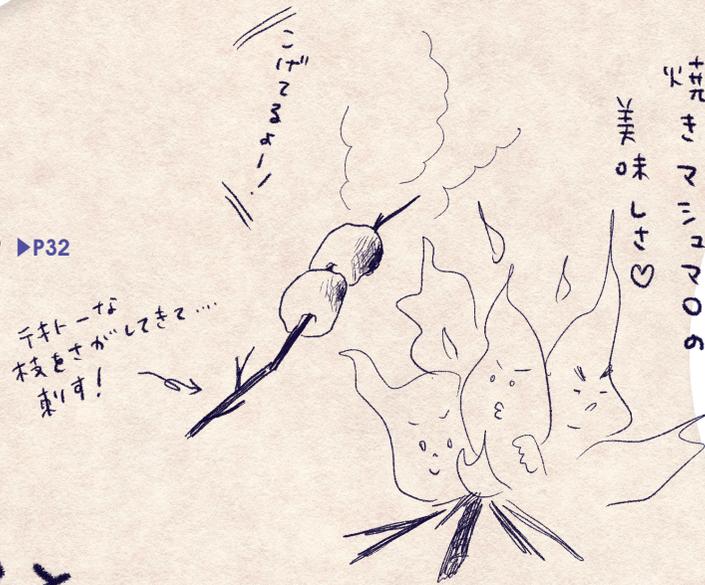
毎週末、わたしと息子は羽根木プレーパークにいる。長い棒の先にねじりパンをつけて焚き火で焼く子ども、拾ってきた枝にマシユマロを刺して炙って食べる子ども、ただひたすら薪をくべてかまどを、育てる「子ども」。

自由の中にもルールがある。湿気を含む木の枝や枯れ葉は白い煙が出て近隣の迷惑になるから火にくべないこと。自分で始めたかまどからは目を離さず、火を消し片付けるまで責任を持つこと。最初は知らないことだらけで、大人のわたしもプレーワーカーに叱られた。

屋過ぎに始めた火遊びは、陽が暮れるまでになることも。大人も子どもも関係ない。自由に遊べる楽しさ。そして、知る楽しさ。炎を見ていると、火傷をしたあの頃の自分を思い出す。怒られたり、教えられたりしながら、今に繋がっている。



プレパーク、
火と人
島尾敏雄、ミホ
島尾伸三



#プレーバック、プレーパーク ▶P32
#火と人 ▶P48
#島尾敏雄、ミホ
#島尾伸三

プレパークと
火と火傷をしたあの頃

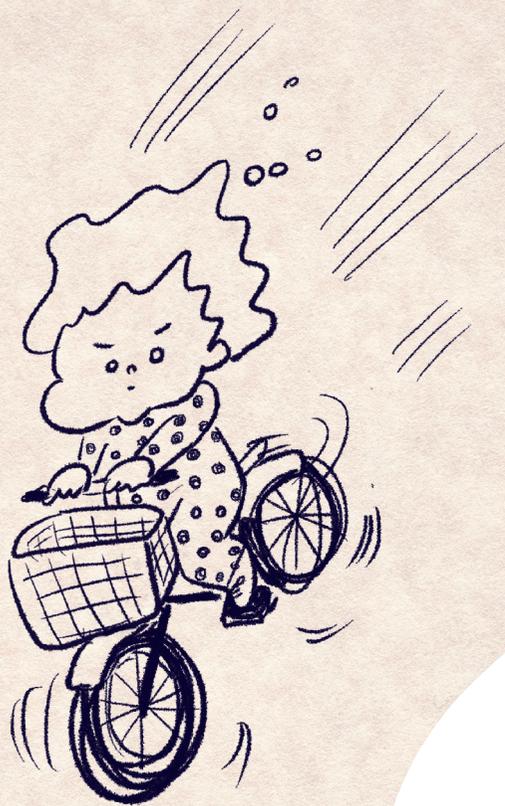
急坂と 自転車と やる気と元気

哲学対話 PARA SHIF ▶P52

やる気と元気 ▶P52

国分寺産線

自転車は
健康のバロメーター!!



通っていた高校が目黒区八雲にあつて、住んでいた豪徳寺からは便が悪かった。満員電車とバスを乗り継ぎ1時間かけて通わなければならず、仕方なしに自転車通学を始めた。高校を卒業し、進学した大学は最寄り駅が大井町線上野毛駅。ここでも3本の電車の乗り継ぎが必要で、家から40分ほどかけての自転車通学を続けることにした。大学の裏手の坂を下ればすぐ二子玉川、その先に多摩川の土手があった。酒盛り、デート、課題の話し合いかから喧嘩まで、学生たちはいつも土手にいた。例外なく、わたしも自転車が多摩川へ。歩いている友だちを追い越し、川へ向かって坂を颯爽と下っていく気持ちのよい往路。しかし、帰り道の登り坂が辛かった。本当に、どこを上っても心臓が破けそうなくらいの急勾配。

卒業後も、大学周辺に住み続ける同級生たちを訪ねて自転車で二子玉川へ通った。行きはよいよい帰りは……だけれど、20代後半、30代中盤でも帰りの坂を自転車で駆け上がるヤル気と元気が自分の健康のバロメーターになっていた。40代になった今、かつての住人だった友だちはほとんどが他所へ移ってしまい、わたしの自転車も子乗せ用の電動自転車に姿を変えた。

あの急勾配……もし、また自転車で行くことがあったら。あの頃と同じように「おりゃー!」と気合で駆け上げられるだろうか。

まるで
早朝の
(遭遇)率は高(可)る



世田谷通り沿いの農大近く。そこで朝まで友だちと過ごしいい加減、そろそろ帰るか……なんて言って、眠たい目を擦りながら明け方の世田谷通りをタラタラ歩いていた。すると、前から馬が歩いて来るではないか。思わず「エーッ!」と声をあげ、友だちと手を取り合った。よく見れば、横に付き添いの女性がいて、馬はゆっくり、ゆっくりと朝の散歩をしていた。そして、なんだか懐かしい匂いが漂ってきた。そう、ここは馬事公苑のすぐ側だ。わたしが大学生の時の思い出。

小学校で年に一度、梅ヶ丘にある校舎から砧公園まで全校生徒で歩く遠足があった。上級生が下級生の手を取り、約4キロの道のりをテクテクと歩く。馬事公苑の脇を通る時、必ず列は大渋滞を起す。皆が塀の間から馬を覗こうと必死になるから。

動物園の柵の前に群がる見物客さながらの光景。

「らー! 前に進みなさい!」

「後ろがつかえてるぞ!」

「人が来るよ! 端っこに寄って!」

あともう少しで砧公園だというのに……先生も大変だっただろう。

あの頃あんなに見たかった馬を、二十歳を過ぎ朝帰りの途中に見るなんて。

2年前から馬事公苑はオリンピックへ向けて工事が始まり、馬たちはどこかへ引っ越してしまった。トラックが出入りし、防音壁の向こうからくぐもった金属音が聞こえる。もう、あの独特の匂いもしない。

早朝の世田谷通り。たてがみをなびかせ颯爽と歩く馬を見ることが、今では夢の中の出来事のようにも思えてしまう。



匂いのワークショップ ▶P44
東京スーダラ2019 ▶P34
馬事公苑
馬との遭遇

馬と朝帰り
と遠足

中庭と芸術行とグチ



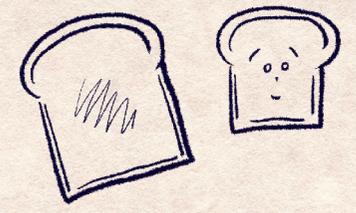
いつもわたしたちのジーンズは汚れていた。休み時間になると大学の中庭にある芝生に車座になってたむろしていたから。校門を出るとすぐ目の前が環八で、ひっきりなしに車やトラック、バイクが走っていたけれど、中庭はとても静かだった。

多摩美術大学芸術学部二部。こじんまりとした小さな大学で、だいたい顔見知りだ。夜間学部だったため、授業が終わるのは21時近く。その時間からまた、ひとりふたりと中庭に集まり腰を下ろす。コンビニのお弁当、お菓子、ロッカーに隠していた七輪を出して肉を焼き始める男の子も。

中庭は広くはなかったけれど一般にも開放されていて、近隣の人たちも散歩に訪れるような自由な場所だった。庭で映画を撮る学生、絵を描く学生、授業はサボって、中庭でゴロゴロするだけで帰って行く学生もいた。みんな、お尻に草や土をつけていた。

「教授がさあ〜」
「あのゼミ面白くないんだよ」
「卒業したらどうする?」
「学校で芸術を学ぶ意味って……」
□では文句を言いながら、学校に居座るわたしたち。行き場のない不安や不満を、グチグチとこねくり回し……夜は深まっていった。

- #〈すわる〉を旅する ▶P29
- #多摩美術大学
- #中庭という小宇宙



我が家ではいつからかトースターを使わずにフライパンでトーストを焼くようになった。3人分なら3枚、食パンを重ねてフライパンに置き、弱火にかける。一番下にある食パンの片面が焼けてきたら、それを一番上に乗せ、また一番下が焼けたら……を、繰り返す。

昔から、朝はトーストと決まっていた。奄美大島から送られてきたすももジャム、母が作ったマーマレード、昨日の残りの焼豚、スパム、ピーナッツバター、6Pチーズ、スープに浸して……。毎日、その日の気分です。

ハムがある日は絶対に、蜂蜜と。母方の祖母が台湾で食べて忘れられなかった味だと教えてくれた食べ方。焼き立てのトーストにたっぷり蜂蜜、その上にハムを載せればそれだけで今日一日が楽しく過ごせそうな気分。

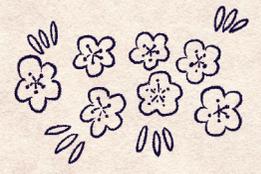
出かけた先でパン屋を見かけるとつい入って、食パンを母へのお土産にする。友人が住んでいた奥沢。行くと必ず寄るパン屋があった。焼きそばパン、メロンパン、きなこパン。アットホームなその店が何だか懐かしくて。通ううちにお店の主人と顔見知りになった。聞けば、独立する前は「ジロー」にいたという。「ジロー」と言えば、かつて小田急線の駅前よく見たパン屋を併設するレストラン。豪徳寺にももちろんあって、我が家の朝食はもっぱら「ジロー」のパンだった……そんな話をしたら

「わたしがその食パンを作りましたよ」
と、「主人がニッコリ。彼は豪徳寺店の店長だったというのだ。」
「ジロー」がなくなつて20年以上経ち、わたしは知らないうちに、また「ジロー」のパンに出会っていたのだ。

食パンと
ハムと
蜂蜜



- # ToaStory ▶P42
- #トーストはフライパンで
- #パンのジロリアン



A year of Lifestyle Design Center

生活工房の一年

通年	1・2・3月	10・11・12月	7・8・9月	4・5・6月	カテゴリ	会期／実施日	事業名
Seminar	Exhibition	Seminar	Seminar	Seminar	Exhibition	2019年3月16日(土)～4月7日(日)	映像のフィールドワーク展 20世紀の映像百科事典をひらく
朗読講座 豊かなことばの世界	3月14日(土)～4月5日(日)	12月21日(土)・28日(土)	9月21日(土)～11月10日(日)	6月22日(土)・29日(土)	Local Community	4月20日(土)・21日(日)	世田谷アートフリマ vol.31
穴アーカイブ：an-archive 世田谷クロニクル1996-03	2月16日(日)・23日(日)	12月8日(日)	8月31日(土)	6月15日(土)～7月15日(月)	Exhibition	4月27日(土)～5月26日(日)	祝！世田谷線50周年 世田谷線にのって展
新しい時代を楽しむ「自分らしさ」の編集術	2月4日(火)・12日(水)	12月3日(火)・17日(火)	8月21日(水)～23日(金)	6月13日(木)	Local Community	6月13日(木)	第44回世田谷おはなしネットワーク講演会 わらべうた絵本と私 ～まじませつこさんの世界
哲学対話 PARA SHIF	2月8日(土)	11月19日(火)	8月1日(木)	6月22日(土)・29日(土)	Local Community	6月22日(土)・29日(土)	火と人の上映会 vol.1「火の星に生きる」 vol.2「火と食べもの」
イシス編集学校×生活工房 情報編集力連続講座	2020年1月25日(土)～2月16日(日)	12月14日(土)～2020年1月19日(日)	8月21日(水)～23日(金)	7月20日(土)～9月1日(日)	Exhibition	7月20日(土)～9月1日(日)	トルコ・トカットの木版ハスク展
新しい時代を楽しむ「自分らしさ」の編集術	2月4日(火)・12日(水)	12月3日(火)・17日(火)	8月21日(水)～23日(金)	7月26日(金)～28日(日)・8月24日(土)	Workshop	7月26日(金)～28日(日)・8月24日(土)	夏の子どもワークショップ 14歳のワンピース
世田谷区芸術アワード「飛翔」授賞式	2月8日(土)	11月19日(火)	8月1日(木)	8月1日(木)	Workshop	8月1日(木)	夏の子どもワークショップ ToaStory ～食パンに描く物語～
第4回非営利PR戦略ゼミ「伝える」ことがすべてではない	2020年1月25日(土)～2月16日(日)	12月14日(土)～2020年1月19日(日)	8月21日(水)～23日(金)	8月21日(水)～23日(金)	Local Community	8月21日(水)～23日(金)	おはなしいっばい
世田谷アートフリマ vol.32	2月4日(火)・12日(水)	12月3日(火)・17日(火)	8月21日(水)～23日(金)	8月21日(水)～23日(金)	Local Community	8月21日(水)～23日(金)	おはなしいっばい
世田谷アートフリマ vol.32	2月8日(土)	11月19日(火)	8月31日(土)	8月31日(土)	Workshop	8月31日(土)	夏の子どもワークショップ 日常探検LABO ～見えないものをデザインしよう編～
分身ロボットOrHimeで会話しよう！孤独を消すためのデザイン	2月16日(日)・23日(日)	12月21日(土)・28日(土)	9月21日(土)～11月10日(日)	9月21日(土)～11月10日(日)	Local Community	9月21日(土)～11月10日(日)	世田谷アートフリマ vol.32
ブレバックス、ブレバーク！遊び場をめぐる冒険	2月4日(火)・12日(水)	12月3日(火)・17日(火)	8月21日(水)～23日(金)	8月21日(水)～23日(金)	Local Community	8月21日(水)～23日(金)	おはなしいっばい
火と人の上映会 vol.3「火がこえるもの」 vol.4「火に折る」	2020年1月25日(土)～2月16日(日)	12月14日(土)～2020年1月19日(日)	8月21日(水)～23日(金)	8月21日(水)～23日(金)	Local Community	8月21日(水)～23日(金)	おはなしいっばい
日常を見限らない 匂いのワークショップ	2月8日(土)	11月19日(火)	8月31日(土)	8月31日(土)	Workshop	8月31日(土)	夏の子どもワークショップ 日常探検LABO ～見えないものをデザインしよう編～
〈すわるく〉を旅するーアジアとアフリカの、あの坐り方と低い腰かけ	2月16日(日)・23日(日)	12月21日(土)・28日(土)	9月21日(土)～11月10日(日)	9月21日(土)～11月10日(日)	Local Community	9月21日(土)～11月10日(日)	世田谷アートフリマ vol.32
第45回世田谷おはなしネットワーク講演会 ブックトークPart2 ～子どもと本との出会いの場をつくる	2月4日(火)・12日(水)	12月3日(火)・17日(火)	8月21日(水)～23日(金)	8月21日(水)～23日(金)	Local Community	8月21日(水)～23日(金)	おはなしいっばい
NPPO・市民活動のためのステップ・アップ講座 第1回「伝える」広報の基本とチラシづくりのコツ！ 第2回みんなの「伝わる」チラシづくり！	2020年1月25日(土)～2月16日(日)	12月14日(土)～2020年1月19日(日)	8月21日(水)～23日(金)	8月21日(水)～23日(金)	Local Community	8月21日(水)～23日(金)	おはなしいっばい

「展覧会」「ワークショップ」「セミナー」「地域と市民活動」の4つの事業を主として生活工房は運営されています。

Lifestyle Design Center primarily supports the four programs of exhibitions, workshops, seminars, and local and regional activities.

Local Community

地域と市民活動

地域とつながる

Connecting with the Region

地域の活動と交流を支援し、多様な価値観や共感の輪を広げ、ネットワークを構築し豊かな地域づくりのお手伝いをしています。

We assist with region-building by supporting area and regional activities and exchange, widening the circle of various values and sympathies, and creating vibrant networks.



Seminar

セミナー

社会を知る、学びを楽しむ

Understanding Society, Enjoying Learning

専門家やクリエイターを招き、暮らしや文化に関する生きた言葉に触れる、さまざまな講演やトークイベントを実施しています。

Experience living words on life and culture in various lectures and talk events given by specialists and creators.



物や情報が溢れる時代。

生活工房は「モノ」だけでなく「コト」に光をあて、小さな物語に耳を傾けます。

観たり、触ったり、感じたりする体験を通して、本当の豊かさや、大切にしたい文化をともに考える場をつくります。

暮らしの根っこに触れること、なぜだろうと考えること、対話することを大切にしています。

In an age overflowing with things and information.

Lifestyle Design Center illuminates the intangible as well as the tangible, paying attention to small stories.

Through the experience of seeing, touching, and sensing,

we ask: what is true abundance, what is culture?

We value the creation of a space for dialogue, to touch on the roots of life and ask each other why.

生活工房の事業 Our Program

Workshop

ワークショップ

多彩なモノづくりを楽しむ

The Joy of Making Things

参加者が手や体を動かしながら「考え」「つくる」ワークショップでは、子どもから大人までが楽しめる多彩なプログラムを実施しています。

A variety of programs are held where participants of all ages can move their hands and bodies as they enjoy "think" and "make" workshops.



Exhibition

展覧会

新たな発見が暮らしを彩る

New Discoveries Embellish Daily Life

生活工房ギャラリーやワークショップルームでは、デザインやクラフト、異文化など多角的なテーマで展示を実施しています。

Exhibitions on diversified themes such as design, crafts, and foreign cultures are held in the Seikatsu-Kobo Gallery and the Workshop Rooms.



生活工房とは About the Lifestyle Design Center

暮らし×デザインの交流拠点

Lifestyle Design Center is
the crossroad of life and design.

Exhibition 展覧会

- 02 しまおまほの世田谷ぐるぐるクロニクル
- 14 生活工房の一年
- 16 生活工房の事業／生活工房とは
- 18 目次

Exhibition 展覧会 事業報告

- 20 映像のフィールドワーク展 20世紀の映像百科事典をひらく
- 21 祝!世田谷線50周年 世田谷線にのって展
- 24 プライベート・コレクション展
- 26 トルコ・トカットの木版〈バスク〉展
- 28 家族って しまおまほと家族、その記憶と記録
- 29 〈すわる〉を旅する —アジアとアフリカの、あの坐り方と低い腰かけ
- 32 プレーバック、プレーパーク! 遊び場をめぐる冒険
- 34 東京スーダラ2019 — 希望のうたと舞いをつくる
- 38 穴アーカイブ:an-archive 世田谷クロニクル 1936-83

Workshop ワークショップ 事業報告

- 40 夏の子どもワークショップ 14歳のワンピース
- 42 夏の子どもワークショップ ToaStory〜食パンに描く物語〜
- 43 夏の子どもワークショップ 日常探検LABO〜見えないものをデザインしよう編〜
- 44 日常を見限らない 匂いのワークショップ

Seminar セミナー 事業報告

- 48 火と人の上映会
- 50 分身ロボットOriHimeで会いにゆく— 孤独を消すためのデザイン
- 52 哲学対話 PARA SHIF
- 54 イシス編集学校×生活工房 情報編集力連続講座 新しい時代を楽しむ「自分らしさ」の編集術
- 55 NPO・市民活動のためのステップ・アップ講座 組織づくりのためのヒント／コツを学ぼう!!
- 56 朗読講座 豊かなことばの世界

Local Community 地域と市民活動 事業報告

- 58 おはなしいっぱい
- 59 世田谷アートフリマ
- 60 市民活動支援コーナー
- 61 世田谷市民活動支援会議／第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”
- 62 生活工房施設ガイド
- 64 数字で見る生活工房
- 65 リピーター会議の声
- 66 フライヤーギャラリー
- 72 協力先一覧

祝!世田谷線50周年 世田谷線にのって展

世田谷線研究家の三瓶嶺良氏と、電線愛好家の石山蓮華氏が「電×車×線」の視点で世田谷線の旅をして、そこで見つけた沿線の見所やマニアックな鉄道情報を写真やパネルで展示。また会期中には、幸福の招き猫電車のペーパークラフトをつくるワークショップや、世田谷在住の俳優・六角精児氏、ギターリスト・江上徹氏による世田谷線貸切の音楽ライブも開催した。いつもの景色がちよっと違って見える、世田谷線の旅へと誘った。

三軒茶屋と下高井戸を結ぶ電車、東急世田谷線は、2019年に50周年を迎えた。それを記念して地域と電車の50年を振り返りながら、沿線を旅するように巡る展覧会を開催した。1969年(昭和44)5月11日、玉川電気鉄道(通称「玉電」)の支線であった下高井戸線は、東急世田谷線として独立。そこから50年の歴史を、地域の鉄道ファンの方々の協力のもと、世田谷線の部品や映像など貴重な資料を交えてたどった。

時速40km、片道18分、 世田谷線の旅に出よう



DATA

開催日時 2019年4月27日(土)~5月26日(日) 9:00~20:00(祝日をのぞく月曜休み)
会場 生活工房ギャラリー
来場人数 7,256名
協力 東急電鉄株式会社、大塚勝利(大勝庵 玉電と郷土の歴史館)、三瓶嶺良、そふと電鉄クラフト株式会社、小松昌子

《関連企画1》

ワークショップ「幸福の招き猫電車ペーパークラフトをつくらう!」
開催日時 5月11日(土) ①10:30~12:00 ②13:30~15:00 ③16:00~17:30
会場 ワークショップルームA
講師 河上勇(そふと電鉄クラフト株式会社)
参加人数 計55名
参加費 各回800円

《関連企画2》

音楽イベント「鉄SOUND 2019 feat. 六角精児」
開催日時 5月26日(日) 14:00~15:30
会場 世田谷線車内
出演 六角精児、江上徹(六角精児バンド)
対象 中学生以上
参加人数 45名
参加費 1,000円

1.各駅のエピソードや見どころを大きな絵巻物で展示(撮影:中川周) 2.部品や駅看板など世田谷線の貴重な資料も展示(撮影:中川周) 3.鉄道にまつわる曲も演奏していただいた(撮影:あらひひろし) 4.完成したペーパークラフトを走らせよう

映像のフィールドワーク展 20世紀の映像百科事典をひらく

観る、やってみる、問いつづける。1952年にドイツの国立科学映画研究所で始まった「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」(以下、ECフィルム)は、世界中の知の記録を集積することを目指した、映像による百科事典。3000タイトル超の映像群に記録されているのは、人間や生き物たちが命から命へと伝えてきた、普遍的な営みだ。フィルムの中に閉じ込められた物語をタイムカプセルのようにひらき、未来へと手渡していくことを目指して、本展を企画した。会場内では、ECフィルムの映像群を「住処」「音楽」「料理」「儀礼」などのキーワードで拾い集め、大画面で投影。ここではただ「観る」だけでなく、映像の中の行為(ひもを縛う、踊る、鳴らすなど)を「やってみる」ことができる。連日「ゲスト研究員」が現れて来場者とともに研究を深め、その痕跡が蓄積されていき、会場は会期の3週間の間に大きく様変わりした。誰もが映像を手軽に残せる現代、その意味を問う展覧会となった。

DATA

開催日時 2019年3月16日(土)~4月7日(日) 11:00~19:00(月曜休み)
会場 ワークショップルームAB/生活工房ギャラリー
来場人数 6,607名
特別協力 公益財団法人下中記念財団
企画制作 ECフィルム活用チーム(下中菜穂、丹羽朋子、中植ささら)、野口靖
協力 株式会社ポレポレ東中野、株式会社東京シネマ新社、NPO法人アートフル・アクション、NPO法人FENICS、東京工芸大学芸術学部ソフトウェアデザイン研究室、女子美術大学芸術文化ゼミI(芸術人類学)、昭和のくらし博物館、国際あやとり協会、柳とあそぼう引地川、ECラボひも部、ECわらしべ調査隊
宣伝美術 吉田勝信(吉勝製作所)

《関連企画》*2019年度開催のみ掲載

ECラボシリーズ!

会場 展覧会場内
4月2日(火)音を出してみる実験① 映像に耳を澄ます。音のない映像に音を聞く。思い巡らす。(ゲスト研究員) 松村拓海(フルーティスト、作曲家)
4月3日(水)粘菌ってどんな生きもの? (ゲスト研究員) 増井真那(変形菌研究一筋10年以上の高校生)
4月5日(金)音を出してみる実験② みんなのリズムで一つの音楽をつくる「パリの音の世界」(ゲスト研究員) 増野亜子(自ら演奏する民族音楽者)
4月6日(土)映像アーカイブの歴史と現在について聞く。(ゲスト) 原田健一(新潟大学地域映像アーカイブ研究センター)、岡田一男(東京シネマ新社)
参加人数 計126名
参加費 無料



1.世界中の映像がキーワードごとに出現する《Divers and Universal Camera》制作:野口靖+ECわらしべ調査隊(撮影:松田洋一) 2.無声の映像に音をつける試みも行った(撮影:松田洋一) 3.最終日の閉館間際の会場には、自発的に仮面をかぶったり、踊りだしたりする人であふれる祝祭空間が出現(撮影:松田洋一) 4.来場者それぞれの発見が膨大なフィールドメモとして残された

Extra Note

世田谷線研究家の三瓶嶺良さん・
電線愛好家の石山蓮華さんが教えてくれた
世田谷線を楽しむ8のトリビア!

POINT 1

下高井戸

POINT 2

松原

POINT 3

山下

POINT 4

宮の坂

POINT 5

松陰神社前

POINT 6

若林

上町

世田谷

西太子堂

POINT 7

POINT 8

三軒茶屋

POINT 1

下高井戸駅への入り口部分は、世田谷線で一番のカーブ。安全のために、電車はゆっくり走ります。レールとのきしみ音を減らすため、以前は列車の通過後に水を散布する設備がありましたが、現在は摩擦調整剤(油のようなもの)の塗布装置が設置されています。



POINT 2

今や電柱はコンクリート製や鉄製のものが主流ですが、京王線下高井戸駅の踏切そばには、木製の電柱が立っています。しかもレトロなホーロー看板も掛けられています。



POINT 3

松原駅は1949年(昭和24年)に設置された駅で、それ以前にあった「七軒町駅」と「六所神社駅」を統合する形で、今の位置に設置されました。線路脇にあるし字のコンクリートは、六所神社駅のホームの名残り。ぜひ探してみてください。



POINT 4

江ノ電に譲渡され、1970~1990年まで海辺を走った世田谷線の車両。現在は里帰りして、宮の坂駅に隣接する宮坂区民センターに展示されています。江ノ電用に、また展示用に改修されているため、昔の世田谷線そのままの姿ではありませんが、木の床だったころの面影を体感できる場所です。



POINT 5

世田谷線のホームをよく見てみると、一番下に古いコンクリートの層があります。これは、旧車両時代のホームで、現在はバリアフリー化した300系に合わせてホームは40cm高くなっています。そのかさ上げ工事は、旧車両がすべて引退した2001年(平成13年)2月10日の終電後、一晩のうちに世田谷線全駅で行われました。



POINT 6

世田谷線は若林駅の近くで環状7号線と交差しており、その踏切には遮断機がなく、車も電車も信号待ちをする、とても珍しい光景が見られます。昔は遮断機がありましたが、運転間隔の短い電車が通ることで開かずの踏切になり、環状7号線に渋滞が発生する事態に。その対策のため、交通信号と踏切を連動させ、1966年に遮断機を撤去しました。



POINT 7

世田谷線の駅前を彩る花々は、東急沿線の緑化プロジェクト「みど*リンク」の一環として、地域の町会の協力のもと育てられています。そしてびっくり、花壇の土を耕しているミミズは、東急田園都市線三軒茶屋駅の駅長室で飼育されています!



POINT 8

東急田園都市線三軒茶屋駅とキャロットタワーの連絡通路にある広場「三茶パティオ」。世田谷線三軒茶屋駅は、玉電のころから1992年11月までこの付近にありましたが、駅前再開発により、キャロットタワーの1階部分へ約100m移動しました。ここを世田谷線が走っていたとは、不思議ですね。





◀◀ Extra Note ▶▶

Extra Note

プライベート・コレクション展 作品所有者インタビュー再録
生活の場所、絵画の在りか

作品を所有する18人の方へのインタビューと作品、そして自宅で飾られている風景を紹介したプライベート・コレクション展。こちらでは、展覧会でも紹介した方へのインタビューを再録してご紹介します。所有している作品の画家・川村司さんとの出会いや、作品に対する印象、飾ってある場所など語っていただきました。

私は写真を撮るのが好きで、写真の作品をグループ展に出したりしています。それで川村さんと知り合いになりまして、それで、なんか急にいただけるっていうことになりました。すごい朗らかな方で、丁寧に接していると思いますし、その丁寧に接するというのが作品にも表れているんじゃないかなとは思っています。川村さんとは、文通ですとか、あとは個展を開催されるので、個展を見に行ったりして、交流を深めています。

色のグラデーション、色を塗り重ねていって、色の変化を楽しんでいるんじゃないかなというのは思います。あと結構、底…、奥のほうは結構濃い色を使っているの、濃い、荒々しい感じを、多分下に置いて、上で柔らかなトーンを置いているので、そういうのもトーンで、なんか隠しているのかなみたいな気はするけれども、ずっと長く見ても見飽きないというのは、不思議だなというのは毎日思います。

飾ってある場所は食事をしたりですとか、書類書いたりですとか、作業場みたいな所です。なぜそこに置いたのかというと、私は賃貸のアパートに住んでいるので、壁に穴が開けられないから、ちょっと身近に置ける所はどこだろうということで、台の上にそのまま置いてしまえと思って、置いて、その絵を見ながら食事をしたりとかして、気分を安らがせています。

ほかの所有者の方へのインタビューや作品が飾られている室内風景の様子は、本展のカタログよりご覧いただけます。カタログは、生活工房ホームページよりダウンロードしてご覧ください。

◀◀ Extra Note ▶▶

プライベート・コレクション展

誰かの家の、誰かの作品

アーティストの藤井龍氏は、作品の所有先を示す「個人蔵」という言葉から着想を得て、個人宅に飾られている作品に注目し、その在りようを写真に収めていく「Private Collection」と題したプロジェクトをこれまで国内各地で展開してきた。

本展は、世田谷区内の個人宅18軒で飾られている約20点の美術作品を藤井氏が取材して構成した展覧会である。会場は、作品が飾られている室内を写した写真、お借りした美術作品、所有者へのインタビューで構成。会期中は、実際に個人宅で所有者が作品解説をするツアー企画や、展覧会のカタログを製本するワークショップも開催した。収蔵庫を持たない生活工房で開催した初のコレクション展。ふだん目にするここのない個人宅にある美術作品を明らかにすることで、作品の展示／収蔵場所について考えた人も少なくないだろう。さまざまな作品との付き合い方を知る機会となった本展は、美術と生活の関係をめぐる、示唆に富んだ試みとなった。

DATA

開催日時 2019年6月15日(土)~7月15日(月) 9:00~21:00(祝日をのぞく月曜休み)
会場 生活工房ギャラリー
来場人数 4,623名
企画制作 藤井龍
協力 譜林招
広報物デザイン&会場グラフィック Tanuki
会場設計 荒川佳大

《関連企画1》
プライベート・ミュージアム・ツアー
集合日時 6月29日(土) 13:30
集合場所 千歳船橋駅北口
参加人数 8名
参加費 500円(お茶代込)

《関連企画2》
カタログ・メイキング
開催日時 7月14日(日) 14:00~17:00
会場 ワークショップルームA
講師 Tanuki
対象 中学生以上
参加人数 20名
参加費 500円(材料費込)

《関連企画3》
クロージング・トーク
開催日時 7月15日(月祝) 14:00~15:00
会場 生活工房ギャラリー
参加人数 25名
参加費 無料

1. 美術作品が並ぶ会場(撮影:松尾宇人)
2. インタビューは動画で紹介(撮影:松尾宇人)
3. 個人宅を写した室内風景(撮影:松尾宇人)
4. イベントで製本したカタログは作品所有者にも贈呈





半分の林檎が1つになるとき

Extra Note

トルコには「Yarım Elma Gönül Alma」という諺があります。1つの林檎を半分にして1つは自分に、1つは相手に渡すという、些細な行為でも人の気持ちを惹きつけるという意味です。

林檎は幸せの象徴として、絨毯やキリム、刺繍、イーネオヤ、そしてトカットの木版バスクにも登場します。トカットの伝統的なモチーフのひとつである林檎のモチーフは林檎を横から見たハート型の連続模様です。主にイスラムの一派であるアレヴィたちが好み、トカット中心部、アルムス、トザンル、シバスの一部の村々などで使われました。

版は大きな正方形で4列×4段、または3列×3段のハートで1つのモチーフになっています。これを黒い染料に付け、赤く染めた布に隙間なく押していくものです。

この林檎のモチーフと似たものに、半分の林檎のモチーフというものがあります。半分というよりは林檎がカットされたような形ですが、これについては同じく黒海沿いのボル県のギョイヌックでの習慣が関係しています。

村では今でも残る習慣として、結婚式の報せをオクと呼ばれる小さな贈り物(例えば下着やタオルなど)と一緒に

渡します。ギョイヌックでは両親が揃っている娘には林檎のモチーフのスカーフをオクとして用意しますが、片親だったり、身寄りがないために十分な嫁入り支度ができない娘が嫁に行くときには、親しい女性が半分の林檎のスカーフと共に村人に報せに走ります。××家の娘が今度結婚するのよ、とスカーフを手渡します。その後は説明することもなく受け取った側もその意味を理解します。そして村の女性たちは協力しながら娘のためにオヤスカーフを作ったり、シーツを用意したりなど、自分にできる範囲でお手伝いをするのです。

嫁入り支度を整え、無事に結婚できた娘が、お姑さんのいる婚家に入るときにも、半分の林檎のスカーフを頭に被せて向かいます。嫁を家に迎え入れた姑は、娘の頭の上にある半分の林檎のモチーフのスカーフを取り、その代わりに、自ら用意した林檎のモチーフのスカーフを嫁になる娘の頭に被せるのです。

「貴女は今まで恵まれずに苦勞してきたかもしれない。でもこれからはこの家で幸せになるのよ」という姑から嫁への無言のメッセージなのだそうです。

野中幾美(のなかいくみ)

出版社勤務、フリーライターを経て、1992年よりトルコに暮らし、地中海沿いのアンタルヤで伝統手工芸の店を営む。トルコや中央アジアの古い手仕事の収集家。編書に『トルコのちいさなレース編み オヤ』(誠文堂新光社刊)。

トルコ・トカットの木版〈バスク〉展

一つひとつ手押しでつくられる、木版プリントの世界

トルコ共和国北部の黒海地方にあるトカット県は、600年の歴史を持つ「バスク」で有名な地だ。バスクとは布に木版でハンドプリントをする手工芸のこと、トルコでは宗教上の理由から日常的にスカーフをかぶる女性たちがいることから、時代に応じてさまざまなモチーフや技術が生まれてきた。スカーフのプリントが手工芸から機械による大量生産へとほぼ移行した現在、木版バスクの職人も少なくなった。しかし近年、バスクの技術と芸術性にトルコ内外での関心が高まり、伝統の技を習得して引き継ごうとする人も出てきている。本展では、トルコで伝統手工芸の店を営む野中幾美氏の協力により、伝統的な木版バスクのスカーフなどを100点以上紹介。バスクの製造工程を取材した映像も上映した。あわせて、日本の手ぬぐいにトルコの職人がプリントしたコラボレーション作品「バスク手ぬぐい」も企画、展示した。

※日本におけるトルコ文化年2019公認企画として開催

DATA

- 開催日時 2019年7月20日(土)~9月1日(日)9:00~21:00(祝日をのぞく月曜休み)
- 会場 生活工房ギャラリー
- 来場人数 9,287名
- 特別協力 野中幾美
- 協力 株式会社かまわぬ
- 後援 駐日トルコ共和国大使館、日本トルコ協会、日本トルコ文化協会
- 〈関連企画1〉 トークイベント「バスクの故郷・トカット〜門外不出の伝統工芸」
開催日時 8月3日(土)14:00~15:30
会場 ワークショップルームA
講師 野中幾美(トルコ伝統手工芸の店「ミフリ」代表)
参加人数 80名
参加費 500円(お茶代込)
- 〈関連企画2〉 関連上映会「トルコのお菓子と音楽、そしてラマダン」
開催日時 8月4日(日)①13:30~14:45 ②15:15~16:30
会場 ワークショップルームA
上映作品 「トルコのお菓子ヘルヴァ」(2006年/15分)、「トルコのチーズづくり」(1972年/6分)、「イスラムの断食 トルコ・カバコズ村」(1970年/12分)、「トルコの管楽器ズルナ」(2006年/33分)の計4作品(いずれも国立民族学博物館製作・所蔵)
参加人数 計88名
参加費 無料
- 〈関連企画3〉 ワークショップ「トルコの本版でつくるスカーフ」
開催日時 8月9日(金)・10日(土)各日13:30~16:30
会場 ワークショップルームA
講師 成原さと子(バスク屋さん)
対象 高校生以上
参加人数 計47名
参加費 各回2,500円(材料費込)
- 〈関連企画4〉 バスクをめぐるギャラリートーク
開催日時 7月30日(火)、8月4日(日)・10日(土)各日11:15~12:00
会場 生活工房ギャラリー
トーク:野中幾美(トルコ伝統手工芸の店「ミフリ」代表)
参加人数 計75名
参加費 無料
- 〈関連企画5〉 トルコ手工芸品の販売会
開催日時 7月30日(火)、8月3日(土)・4日(日)・9日(金)・10日(土)各日11:00~17:00
会場 ワークショップルームA前
- 〈関連企画6〉 コラボレーション企画「トルコの手仕事展」
開催日時 7月26日(金)~8月19日(月)10:30~19:00
主催・会場 かまわぬ浅草店「piece」



1.美しい木版バスク布の数々をモチーフや技法などの説明とともに展示(撮影:田中由起子) 2.野中幾美さんのトークではトルコ大使夫人にもスピーチをいただいた 3.手ぬぐい(注染)に木版プリント(捺染)を施した「バスク手ぬぐい」(撮影:田中由起子) 4.50種類もの木版から好きな組み合わせでスカーフをつくるワークショップ

〈すわる〉を旅する

アジアとアフリカの、あの坐り方と低い腰かけ

私たちの身体は、何を失いつつあるのか

1970年代よりデザインの視点でのフィールドリサーチを続けてきた井上耕一氏。アジア各地を旅するなかで、両足の裏を地面につけたまま腰を下ろし、両膝を立ててしゃがんだ姿勢で食事や仕事などあらゆる行動をする人々を目撃する。同時にその姿勢が西洋化著しい都市部では失われつつあることに気が付いた井上氏は、この姿勢を「あの坐り方」と名付け、このポーズで何かをしている世界各地の人々を撮影し続けた。後年、「あの坐り方」をより長く維持するための補助具となる腰かけの収集も始める。そして2000年より、人類発祥の地であるアフリカ各地にも調査に赴く――。

本展では、井上氏による30年以上におよぶ〈すわる〉フィールドリサーチから、アジアとアフリカの膨大な写真200枚と、30点以上の腰かけを展示。世界各地の記録映像も交え、歴史的・建築的観点からの座具との関係も見つめながら、旅するように〈すわる〉を探った。



1.腰かけにすわりながら、映像や写真を眺められる会場(撮影:佐藤基) 2.伝統的な暮らしと〈すわる〉の関係に迫る井上氏のトーク 3.あの坐り方でさまざまな作業を試した身体0ベース運用法 4.あの坐り方でお茶を飲むカフェも2日間限定でオープンした

DATA

開催日時 2019年11月16日(土)～12月8日(日)10:00～18:00(金曜は20:00まで、月曜休み)
会場 生活工房ギャラリー、ワークショップルームB
来場人数 3,770名
特別協力 井上耕一
協力 公益財団法人下中記念財団、株式会社東京かんかん
アートディレクション 片山中蔵

《関連企画1》
スライドトーク「人類の移動と〈すわる〉を考える」
開催日時 11月23日(土・祝)14:00～15:30
会場 ワorkshopルームA
講師 井上耕一(デザインリサーチャー)
参加人数 56名
参加費 500円

《関連企画2》
身体0ベース運用法「〈すわる〉からトレーニングする」
開催日時 12月1日(日)13:00～17:00
会場 ワorkshopルームA
講師 安藤隆一郎(身体0ベース運用法)
対象 高校生以上
参加人数 17名
参加費 1,500円

《関連企画3》
「あの坐り方」でティーブレイク
開催日時 11月29日(金)、12月5日(木)各日14:00～15:30
会場 ワorkshopルームA
参加人数 計71名
参加費 100円(お茶代、おかわり自由)

家族って

しまおまほと家族、その記憶と記録

**おかしくも、切ない、
家族の記憶と記録**

エッセイストのしまおまほ氏。ともに作家の島尾敏雄・島尾ミホを父方の祖母に持ち、両親はともに写真家の島尾伸三氏と潮田登久子氏。そんな家族の存在は、自身の日常を題材にしたエッセイにもしばしば登場し、ときにおかしく、ときに切ないエピソードとともに綴られてきた。しまお氏にとって家族は、最も身近で、かつ大切なテーマといえるだろう。

本展では、しまお氏の視点から自身の家族を紹介した。今回のために書き下ろした原稿に加え、幼少期から現在に至るまでの生活を物語る品々も展示。島尾伸三・潮田登久子両氏による家族写真が、エッセイとともに家族の関係を立体的に浮かび上がらせた。

また、トークイベントでは写真家の植本一子氏をお招きし、作家が家族をテーマにすることをめぐって話題は多岐にわたった。社会やライフスタイルの変化にもない、多様な家族のかたちがある現在、来場者自身が家族との関係を思いめぐらす展覧会となった。

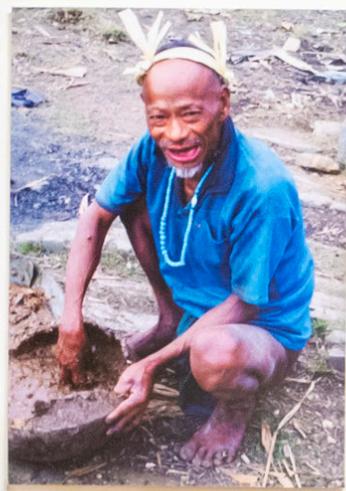
DATA

開催日時 2019年9月21日(土)～11月10日(日)9:00～21:00(祝日をのぞく月曜休み)
会場 生活工房ギャラリー
来場人数 8,995名
企画制作 杉本勝彦
広報物デザイン&会場グラフィック 溝端貢[ikaruga.]

《関連企画1》
トークイベント「家族を記すこと
しまおまほと植本一子」
開催日時 10月5日(土)14:00～15:30
会場 ワorkshopルームB
講師 しまおまほ、植本一子
参加人数 75名
参加費 1,000円



1.エッセイと写真が点在する会場構成(撮影:溝端貢[ikaruga.]) 2.幼少期の落書帳やテストの回答用紙も展示(撮影:溝端貢[ikaruga.]) 3.両親や祖父母、息子だけでなくペットも紹介した(撮影:溝端貢[ikaruga.]) 4.トークイベントでの1コマ

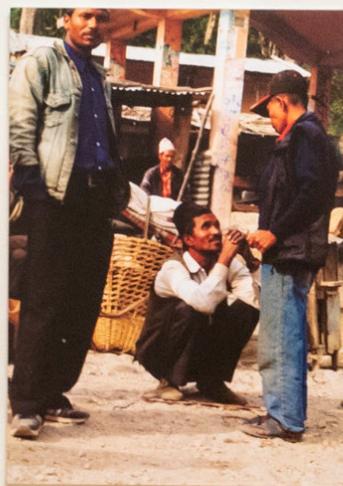
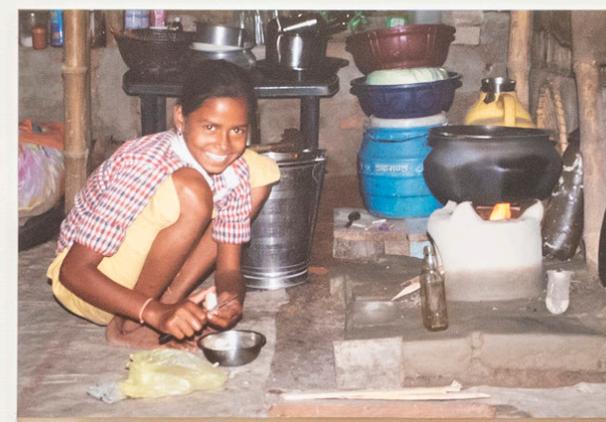


眺める

つくる

耳をすます

料理をする



売る



東京スーダラ2019

希望のうたと舞いをつくる

震災後、オリンピック前、2019年の東京を記録する

映像作家の小森はるか氏と画家で作家の瀬尾夏美氏、ダンサーの砂連尾理氏、公募によって集まったリサーチャーたちが、戦後の流行歌「スーダラ節」をヒントにプロジェクトを始動した。リサーチャーは平成生まれの若者4人。何も知らぬ同士から会話を始め、自身の生活実感に深く関わるテーマとして「震災」「家」「友だち」「古い」をそれぞれ選び、いくつかの対話を続けるなかで、互いに通底する感覚や問題意識に気付いていった。

震災後、オリンピック前の東京において、アーティストが投げた「現代におけるスーダラ節とは、一体どんなものだろう？」という問い。そこに集った人々は、言葉を交わし、思索と身体ワークシヨップを重ね、揺れ動く日常を生き抜くための「術」としての「希望のうたと舞い」を生み出した。本展ではそのドキュメントと、それに並行して生まれたテキスト、映像、ドローイング作品を展示し、会期中にダンスパフォーマンスを上演した。



砂連尾理氏、リサーチャー、大学生、ワークショップ参加者によるダンスパフォーマンス (撮影:佐藤基)

DATA

開催日時 2020年1月25日(土)~2月16日(日) 10:00~18:00(金曜は20:00まで、月曜休み)

会場 生活工房ギャラリー、ワークショップルームB

来場人数 2,515名

助成 公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団

協力 太田遥、小林功弥、安富奏、吉立開途、小屋竜平、藤原康弘、松尾元、立教大学現代心理学部映像身体学科

〈関連企画1〉

ダンスパフォーマンス&アフタートーク

開催日時 1月26日(日)、2月2日(日) 各日19:00~21:00

会場 ワークショップルーム

出演 太田遥、小林功弥、安富奏、吉立開途(以上本展リサーチャー)、立教大学現代心理学部映像身体学科砂連尾理氏など

構想・演出 小森はるか+瀬尾夏美+砂連尾理

振付 砂連尾理、立教大学現代心理学部映像身体学科砂連尾理氏

照明デザイン 藤原康弘

照明オペレーション 藤原康弘(1月26日)、松尾元(2月2日)

アフタートークスピーカー 小森はるか+瀬尾夏美+砂連尾理、平倉圭(1月26日のみ、横浜国立大学大学院准教授)

参加人数 計142名

参加費 各回2,000円

〈関連企画2〉

レクチャー&ギャラリーツアー「いま、希望のうたと舞いとは何か?」

開催日時 2月9日(日) 14:00~16:30

会場 ワークショップルームA

スピーカー 小森はるか+瀬尾夏美+砂連尾理、小屋竜平(本展プロジェクトアドバイザー)、太田遥、小林功弥、安富奏、吉立開途(以上4名本展リサーチャー)

参加人数 27名

参加費 500円



1.3階はプロジェクトのプロセスを追体験する展示に(撮影:佐藤基) 2.11のプロセスを映像やテキスト、ドローイングで紹介(撮影:佐藤基) 3.震災後オリンピック前の今をおどる(撮影:佐藤基) 4.リサーチメンバーと巡るギャラリーツアー(撮影:佐藤基)





Workshop ワークショップ

穴アーカイブ:an-archive 世田谷クロニクル1936-83

84巻の8ミリフィルム、 12人のオーラル・ヒストリー

昭和30年代から50年代にかけて広く普及した8ミリフィルム。現在では当時の暮らしを知る貴重な資料となっている一方で、その多くは押し入れに眠ったままになっており、今まさに劣化・散逸の危機にある。

2015年から生活工房で展開する「穴アーカイブ」は、こうした8ミリフィルムを収集・公開・保存・活用する取り組みだ。世田谷区内の一般家庭から募集し、デジタル化した映像84巻はウェブサイト「世田谷クロニクル1936・83」で公開している。

本展では、これら全映像を上映するとともに、フィルム提供者のオーラル・ヒストリーも紹介。無音の8ミリフィルムに添えられた12人それぞれの声、映像に奥行きを与える。記録と記憶を往来するコミュニティ・アーカイブの在り方が提示された。

8ミリフィルム84巻を収録する、この小さなアーカイブから語られていく無数の記憶。こうした声に耳を傾ける場を、これからも開いていきたい。

DATA

開催日時 2020年3月14日(土)～3月29日(日) 10:00～18:00(金曜は20:00まで、月曜休み)
会場 ワークショップルームAB、生活工房ギャラリー
来場人数 1,337名(3月31日現在)
企画制作 remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
イラスト ナガノチサト
広報物デザイン&会場グラフィック カラマリ・インク
会場設計 RUI Architects
施工 吉田尚弘
調査 松本篤、八木寛之、成田海波、ブルサコワありな、水野雄太
映像編集 井田暹

《関連企画1》

「せたがやアカカブの会」
開催日時 2019年8月14日(水)、9月11日(水)、11月6日(水)、2020年1月8日(水) 各日19:00～20:30
会場 ワークショップルームA
参加人数 計48名
参加費 無料

*新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、展覧会開催期間を短縮し、関連イベントは全て中止とした。

1. 3階では全映像の上映(撮影:Daisaku OOZU) 2. 4階展示風景(撮影:Daisaku OOZU) 3. 提供者から借用したモノ(撮影:Daisaku OOZU) 4. 提供者のインタビューを抜粋したハンドアウト(撮影:Daisaku OOZU)



夏の子どもワークショップ 14歳のワンピース

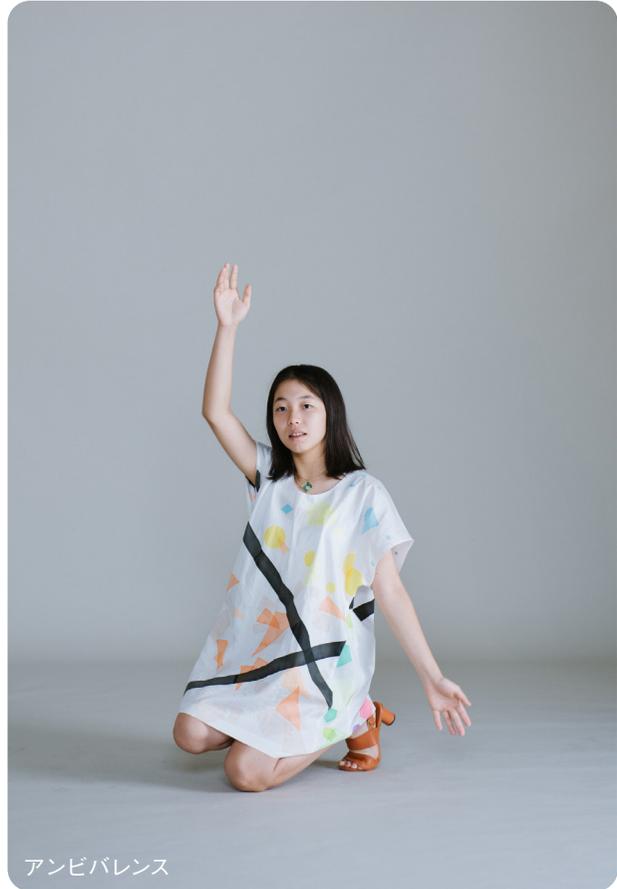
14歳の私を獲得しよう！

夏休みの3日間をかけて、14歳の心模様をデザインして生地をプリントし、約1カ月後、仕立てたワンピースを身にまとっての撮影会を行うワークショップ。自分の心に響く歌詞や言葉をヒントに、感情や憧れの気持ちなどを折り紙で色や形に表し、その図形を組み合わせた反復したりすることで、デザインを生み出していく。

『One for all, All for One』というワンピースを制作した参加者は、「はじめは、みんな違っていい、という気持ちだったけど、制作するなかで、1人はみんなのために、もしまわりと違う人がいても、まわりがその人を認めればいいと思うようになった」と発表してくれた。14歳の気持ちの変化や成長、その機微がワンピースのデザインに込められている。ほかにも『アンビバレンス』『小さな冒険、大きな花火』『虹色の心』『強さと優しさの関係』『不安から発見への道』『14歳の恋ゴコロ』『感情の色と形』『思い入れ』『涙…』などのタイトルを付けた、この世にひとつだけのワンピースが完成した。



感情の色と形



アンビバレンス



虹色の心



小さな冒険、大きな花火



DATA

開催日時 2019年7月26日(金)・27日(土)・28日(日) 各日10:00~17:00[制作]、8月24日(土)13:00~17:00[撮影会]
会場 ワークショップルームAB
講師 飛田正浩(spoken words project)
対象 中学2年生女子
参加人数 11名 *ほか保護者など見学者18名
参加費 4,000円(4日分)
協力 三橋奈穂子(spoken words project)、池田晶紀、池ノ谷侑花、杉山亜希子(以上3名ゆかい)

- 1. インクと型紙を使って、布にプリントする
- 2. 背中に大きな花火を咲かせます
- 3. 撮影会の記念の1枚(撮影:ゆかい)
- 4. 折り紙やセロファンを使って、イメージを形に表す

夏の子どもワークショップ

日常探検 LABO ～見えないものをデザインしよう編～

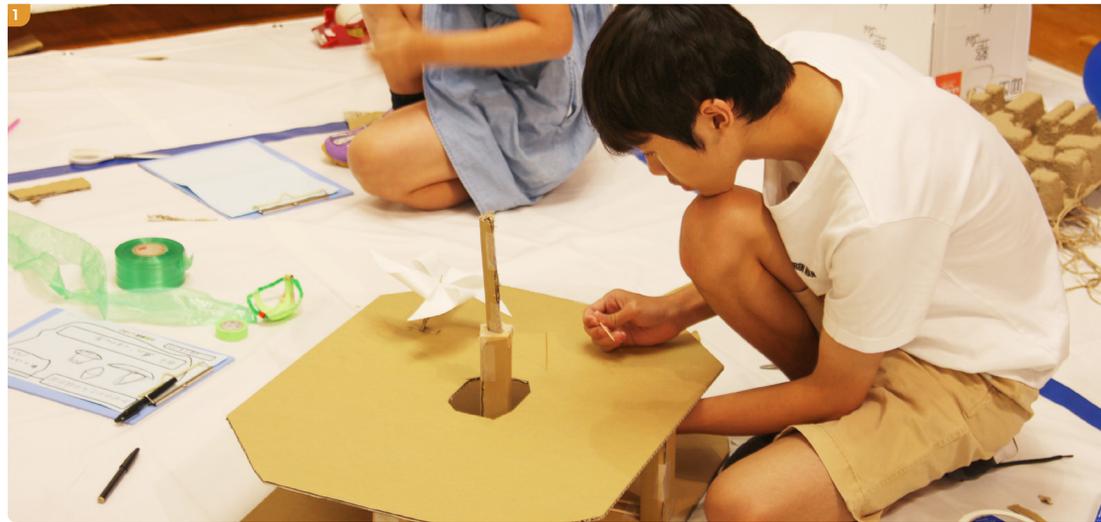
**風のかたちは
どんなかたち？**

暮らしのなかにあるふしぎを探る「日常探検 LABO」。今年のテーマは、目には見えないけれど、私たちの周囲に満ちる空気のこと。風がふいたら揺れる洗濯物や風鈴、風車、寒い日の白い息。そんな身近にある現象をヒントに、空気に形を与えて、空気を見る・空気に触れる作品を制作した。

日常で気にしていなかったものに目を向けること、自分の思い描いたものを形にして人に伝えること、思いっきり体を動かして制作すること。それらを目標に、イメージ図や設計図を考え、ダンボールなどを加工して制作した。

途中、3時のおやつとして、フードデザイナー西村隆ノ介氏によるスペシャルドリンクも登場。気泡を含む炭酸水にホイップクリームを添えて、おいしいデザートを楽しんでから作品の仕上げに取りかかった。

最後は保護者も招き、自分の作品の発表会。風で揺れる、風を起こすといったデモンストレーションを交え、プレゼンテーションを行った。



DATA

開催日時 2019年8月31日(土) 11:00～17:00
 会場 ワークショップルームA
 講師 日常探検 LABO(おかだゆか+遠山美月+西村隆ノ介+吉田貴寿)
 対象 小学3年～中学生
 参加人数 27名 *ほか保護者など見学者25名
 参加費 1,000円

1. いろんな素材を工作して、風を感じる造形をデザインする 2. 工夫した点など作品について発表しよう 3. おやつは空気や風をイメージしたドリンク 4. みんなで記念撮影

夏の子どもワークショップ

トーストリー ToaStory ～食パンに描く物語～

**少しのアイデアで
毎日を味わう**

フードコーディネーターでトーストアートの第一人者でもある森映子氏と、食パンをキャンバスにカラフルな食材で絵を描くワークショップ。

前半のレクチャーでは、森先生から「塗る・置く・振る・抜く・書く・焼く」などトーストアートの技法を学んだ。後半の制作では、食パンにジャムやクリーム、ゼリーやクラッカー、ココアパウダーなど色とりどりの食材を盛り込んで、それぞれのこだわりが詰まった鮮やかな作品がテーブルに並んだ。作品鑑賞後には実際に実食!! トーストアートの楽しさは、つくった作品を最後に食べることができるところ。作品を食べながら隣の子と会話が弾む。朝の食卓に楽しい食パンを並べること、子どもが元気に一日をスタートできるようなとの想いからトーストアートを始めたという森先生。忙しくて憂鬱な朝にも、食べる相手の喜ぶ顔を思い浮かべながら少しのアイデアをブラッシュして、「毎日を味わうこと」の大切さを学んだ一日だった。



DATA

開催日時 2019年8月1日(木)
 ①10:30～12:30 ②14:30～16:30
 ※各回完結
 会場 ワークショップルームA
 講師 森映子(フードコーディネーター)
 対象 小学3～6年生
 参加人数 計46名 *ほか保護者など見学者40名
 参加費 各回1,000円

1. 個性あふれるトースト作品の数々 2. 講師の森映子氏 3. オセロをマシュマロと抹茶とチョコで制作中 4. 出来上がった作品を食べる至福のとき



日常を見限らない 匂いのワークショップ

匂いの記憶を呼び覚ます

研究者やアーティストとともに五感をフル活用し、見落とされた無数の日常の出来事を味わい直すワークショップ・シリーズ。「音」と「身体」をテーマにした昨年に続き、今年は「嗅覚」から私たちの日常を捉え直した。「Talk: われ匂う、ゆえにわれ在り?」では、嗅覚アートの展示会を多く手掛ける岩崎陽子氏が、「嗅覚II 匂い」から捉える空間認識について、美学や身体論の立場から解説した。

「Workshop: 匂いを知る」では、嗅覚研究者の白須未香氏が、人の嗅覚の仕組みや個人差、香りの分析方法について解説。参加者と持ち寄った本の残香を分析した。初日のワークショップ終了後2週間、最終日の匂いのアートの記憶を呼び覚ましなが、作品化した匂いの「物」や「こと」を集めた。「Workshop: 匂いと記憶」では、美術作家の井上尚子氏とともに、各々が収集した素材や、匂いの記憶にまつわるストーリーをアート作品として制作し、展示発表を行った。

DATA

〈Talk〉「われ匂う、ゆえにわれ在り?」
匂いから捉える日常空間と記憶
開催日時 2019年10月14日(月・祝)
13:00~15:00
会場 ワークショップルームB
講師 岩崎陽子(嵯峨美術短期大学准教授)
参加人数 46名
参加費 500円
協力 スカンジナビア・ニッポンサカワ財団

〈Workshop〉「匂いに気づく」/「匂いと記憶」
開催日時 10月22日(火・祝)「匂いに気づく」、11月4日(月・休)「匂いと記憶」各日10:00~17:00 ※2日完結
会場 ワークショップルームAB
講師 井上尚子(美術作家)、白須未香(嗅覚研究者)
対象 高校生以上で両日参加できる方
参加人数 19名
参加費 2,000円(2日分)
協力 MUSEUM VILLA STUCK in Munich (Germany)、JSP科研費(18K14651)、未来社会創造事業(JPMJM17DC、JPMJM19D1)、アーツ千代田3331
備品提供 玉川大学芸術学部

本企画の記録映像を生活工房のYouTubeチャンネルをご覧ください。



1. 古書の残香を嗅ぐ様子 2. 本の匂いを嗅いで分析の様子 3. 色々な場所の空気を採集した作品を体験 4. 試香紙を嗅いで何の匂いか想像する

Extra Note

日常を見限らない 匂いのワークショップ

広がる世界

子どもの頃、外国の絵本が大好きだった。本を開くと何よりも先に紙やインクの未知の匂いにフワッと包まれる。あっという間に知らない国へ飛んでいける感覚、一瞬のワクワク。行ったことのない国の本を開くのは、だから今も大好き。

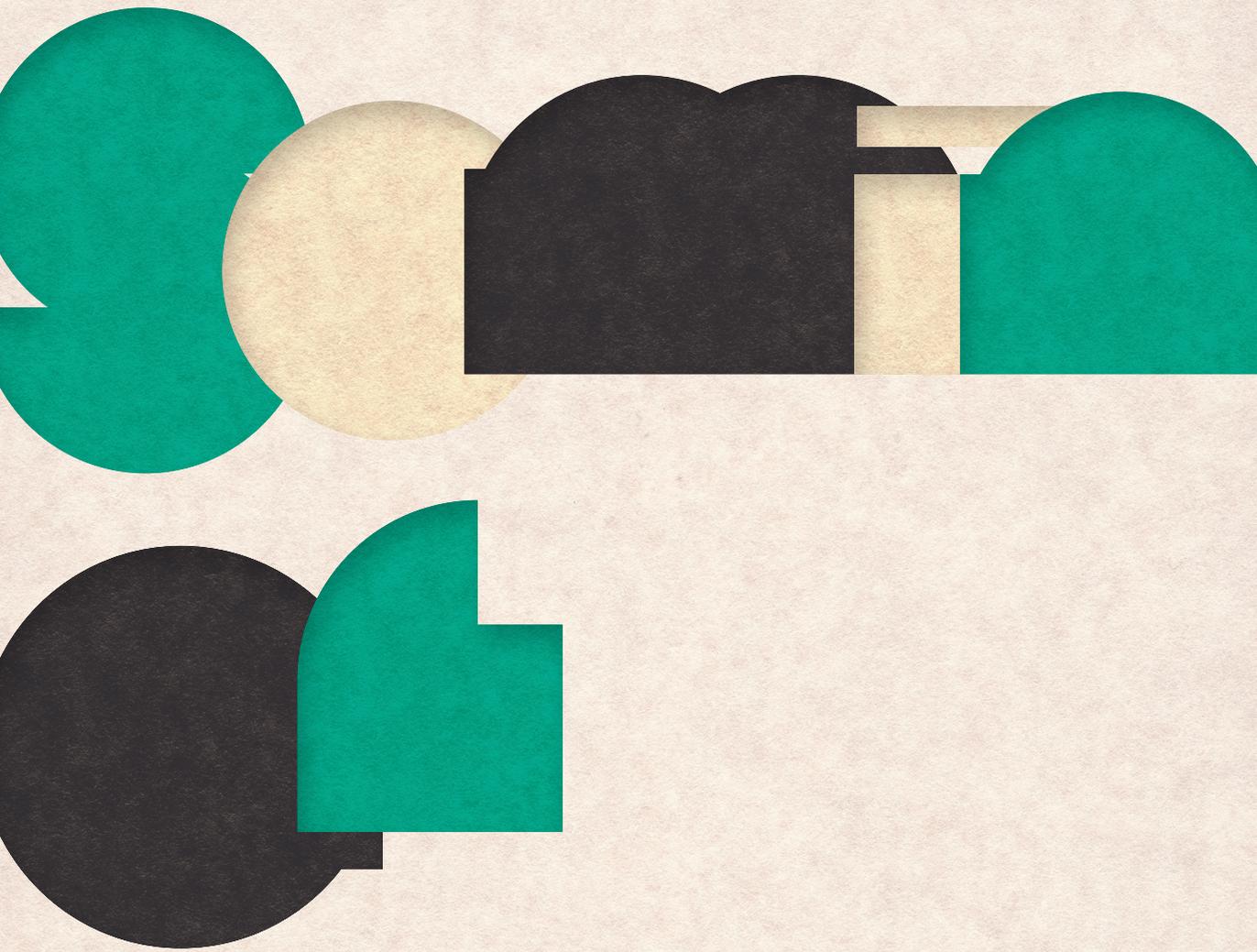
こうしていつのまにか「古本のおい」が好きになった。巡り巡ってここにある本が好みの匂いだなんて、想像がおおいに膨らむ。ノースカロライナの古本屋で「スニフ買い」したバニラの匂いの本は宝物だ。ときどき出会うバニラ本。その正体を知りたかった。ところが、その疑問を抱えて、わざわざ臨んだワークショップでその謎がすんなり解けてしまった。……ちょっと驚きの収穫。

私の場合、恐怖や不安、悲しみを孕んだ記憶は強烈な匂いがセットになっている。2歳の時の火傷や9・11など、まるでパズル。もやもやとした記憶の断片、放り投げられたままのイメージや微かな音。其処彼処に漂う匂いを手繰り寄せ、それらが繋がったとき、爆発的といってもいいくらい景色や感情が色鮮やかになる。シュワッと効果音まで聞こえてくる。本当に驚いた。苦しさが息を吹き返し、痛みも立体的になった。

では翻って、愉快的な記憶はどうなの?改めて探してみる。こちらは「食への好奇心」が手伝っているようで、おおよそ食べ物に関わっている。学生の頃通ったお店のラブサンスーションと、ほかほかのカスタードをかけたチョコレートケーキなんて懐かしい。厨房の換気扇から容赦なく吹き付けられる油と混ざりあって、ちょっと安っぽい幸せの匂い、かな。

極めて個人的な匂い、記憶+感情を共有した、出会ったばかりの人たち。この不思議な距離感に目眩がした。しかも敢えて話す必要もなく、自分だけに留まっていた細やかな波をアウトプット。時々立ち寄って気持ちの整理を試みる、すり合わせてみる。匂いと記憶が連動していることを意識できる。生きている感覚が躍る。「心の匂い館(としょかん)」、これはいいツールかもしれない。

*匂いのワークショップ参加者・渡邊あこさんにコメントいただきました



Seminar セミナー



火と人の上映会

人の生活は古来、
火とともにあった

人類が初めて出会った火は、落雷や山火事など自然発火によるものだったと推察される。人類はその火を保つ工夫を生み出し、さらには火を起こす方法も発見した。

火を手にしたことで多くの動物から守られ、暗いなか行動することも可能となった。また火で調理することも食物を咀嚼しやすくなり、エネルギーの摂取率が向上して、脳にも多くのエネルギーを使えるようになった。ヒトという種を現代の人間へと移行させたのが、火であるといっても過言ではない。しかし今、私たちの暮らしから、火は少しずつ姿を消している。火は多くの危険をもたらすため、日常生活で目にするのはライターやコンロなどの「制御できる小さな火」に限られるようになった。そしてそれすらも、電化製品に取って代わられてきている。火と離れて、人間はどのように生きていくのだろう。火と人のこれまでとこれからを探るべく、4つの切り口で集めた記録映像の上映会を開催した。

Extra Note

「火」にまつわる神話より

天の火

このころには、まだ地上には生きものはいませんでした。そこでオリュムポスの神さまがたは、地の中で、すべての物の生きもののかたちを土で作って、プロメーテウスとその弟のエピメーテウスに命令しました。

「これらのものどもに、それぞれてきとうな力をさずけるように。」(略)

弟神はよろこび勇んで、動物たちにそれぞれ特徴のある能力をさずけました。それで、ある動物は、力はあるけれども走るのがおもしろい、ある動物は、弱い、ひじょうに速く走れるようになりました。またある動物は、小さくて弱いけれども、空をとんだり、地のなかにすまうことができるのです。

またさむい冬にも負けずに、ふかい毛やあつい皮で動物たちを保護してやり、あるものにはひづめを、ほかのものには、するどいつめをつけてやりました。(略)このようにして、エピメーテウスは、どの動物も死にたえることがないように、じゅうぶんに考えてやったのです。

ところが、動物たちにあまりいろいろとたくさんな能力をわけてやってしまったので、いよいよ人間の番になると、もうなにもこっていません。それで、はどうしたものかとこままっているところへ、プロメーテウスが、どうなったか見にきました。ところが、ほかの動物はみんなじゅうぶんにもらっているのに、人間だけはまだはだかで、はだして、ねむるところもなく、身をまもる方法がありません。しかも人間も、ほかの動物とおなじように、もう地のなかから地の上に出るときがせまっているのです。

そこで、プロメーテウスはこまったあげくに、空高くとんで、オリュムポスの山の上にいきました。そこには神さまたちの宮殿がたちならんでいます。そのうちのひとつに、鍛冶の神さまであるヘーパイストスの宮殿があって、そこには鍛冶場に火がいつもかっかともえています。プロメーテウスはその火を草のくきの中にそっとかくして、大いそぎで地上に帰り、人間にあたえました。こうして人間は、ほかのどんな動物も持っていない火と技術をもつようになったということです。

『ギリシア神話』(高津春繁・高津久美子訳、備成社文庫、1977年)より引用

DATA

vol.1「火の星に生きる」

開催日時 2019年6月22日(土)14:00~17:00

上映作品 「火山が育む海」(BBC「サウスパシフィック」より)ほか計6作品

参加人数 27名

vol.2「火と食べもの」

開催日時 2019年6月29日(土)14:00~17:00

上映作品 「長良川の鰯鮓い」(東京シネマ新社)ほか計8作品

参加人数 32名

vol.3「火がつくるもの」

開催日時 2019年12月21日(土)14:00~17:00

上映作品 「川口の鍔物師」(民族文化映像研究所)ほか計10作品

参加人数 12名

vol.4「火に祈る」

開催日時 2019年12月28日(土)14:00~17:00

上映作品 「土と火と水と バリ島の葬式」(国立民族学博物館)ほか計10作品

参加人数 38名

会場 ワークショップルームB

共同企画制作・デザイン といのきデザイン事務所

協力 京都市文化市民局文化財保護課、新島村博物館、公益財団法人下中記念財団、株式会社東京シネマ新社、一般社団法人民族文化映像研究所

参加費 各回500円(資料と1ドリンク代)

1.会場風景 2.vol.2で上映した「水草からの塩の採集」(エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ) 3.来場者それぞれの火への思いが集まったアンケート 4.新島村博物館からお借りした火山岩「コーガ石」も展示





10代にむけたセミナー

分身ロボット OriHime で会いにゆくー孤独を消すためのデザイン

「やりたい」を見つけて、とにかくやってみる

吉藤オリィ氏が開発した OriHime は、遠くはなれていても、会いたい人に会いにゆくことができる分身ロボットだ。「孤独の解消」を目指して研究開発を続けるオリィ氏に、そのきっかけとなった自身の経験談や、親友の故・番田雄太氏とのエピソードなど、たくさんのお話を伺った。

質問タイムには、子どもたちから次々と手が挙がり、歩くロボットについての質問には「ロボットを二足歩行させることは、技術的には可能。でもロボットを歩かせてあなたは何をしたいのか？ それがないなら歩かせる必要はない」とオリィ氏。その回答はものづくりの本質とは何かを、私たちに投げかけた。老いや病気や、誰もがいつか直面する問題を、テクノロジーによって解決することができれば、心身の自由は取り戻せる。未来の暮らしを予感させるオリィ氏の話には、あなたは何をしたいか、人間が本当に生きるとはどういうことか、という大切なメッセージが詰まっていた。



DATA

開催日時 2019年12月8日(日) 14:00~16:30
会場 生活工房セミナールーム
講師 吉藤オリィ(ロボットコミュニケーター)
対象 10歳~18歳くらいの方
参加人数 102名
参加費 500円
協力 株式会社オリィ研究所



1. 黒い白衣を着たオリィ氏 2. こだわりの車いすも開発。とにかくつくってみる 3. オリィ氏のマネージャー・村田望氏も OriHime で登場 4. 質問タイムは大盛り上がり

小学4年生女子の声……これからどのように生きて人どのように接すればいいのかわかった。

Extra Note

オリィさんへ、10代からの質問！

Extra Note



Q 好きな動物は何ですか？



A 好きな動物、猫！ あいつらの何もしてなくせにめちゃくちゃ求められてる感じがいい。そこにいるだけで価値みたい。あれは我々が目指す最終ゴールかもしれない。



Q これから OriHime に追加したい機能は何かありますか？



A いっぱいある。例えば、海外での自動通訳。OriHime 越しにしゃべったら合成音声で変換してしゃべってくれたらいいよね。これの何がいいかっていうとね、目が見えない人とか耳が聞こえない人が OriHime で接客の仕事もできる。でも自分が海外に行く必要がないならつけないでもいい。「何がしたいか」から始まるのがものづくりだと思っています。



Q オリィさんが、親友の番田さんが遠隔操作した OriHime と一緒に働いているときってどんな気持ちでしたか？



A なかなかこれは鋭い質問だね。実ははじめのうちは、一緒にいるっていう感覚はなかなか難しく、「一緒にいる」って何だろうっていう話なんだよね。今君たちはこの会場に一緒にいるわけなんだけれど、知らない子もいっぱいいるじゃん。知らない子たち同士で、「一緒にいる」っていう感覚を味わっているだろうか。「いる」とは何かっていうと、自分でそこにいるっていう感覚と、周りにいる人が、だれだれそこにいるよね・いたよねっていう認識。この二つが合わさった時が一緒にいるっていう状態かなって思う。そして何かを一緒にしているとき。



Q オリィさんが一番好きな言葉は何ですか？



A 死んだ親友の番田が言っていたことなんだけど、「生かされることと生きることは違う」。「生かされる」んじゃなくて、「生きようぜ」という言葉。あと「心が自由ならどこへでも行けて何でもできる」。体がいくら動いたとしても、その体を使って何がしたいっていうことがなければ、どんなに学校で勉強したとしても、いい成績とったとしても、その鍛えた頭脳を使って何がしたいかっていうのがなければ、持ち腐れかもしれない。ともかく、心を自由にしておくこと。それが私は生きるっていうことなんだと思う。

吉藤オリィ(よしふじ・おりい)

ロボットコミュニケーター。小学5年~中学2年まで不登校。2009年より「孤独解消」をテーマにした分身ロボット開発に取り組み、2012年に株式会社オリィ研究所を設立。2019年「分身ロボットカフェ ver β 2.0」をオープン、大きな反響を生んだ。

Extra Note

哲学対話 PARA SHIF

自らの知の体系を アップデートする哲学の夜

哲学という学問が持つ最大の魅力。それは数々の哲学者が生み出してきた概念（固有の物の見方）を学ぶことで、物事を考える際に基準としていた価値観や規範が劇的に変わる「PARADIGM SHIFT」を経験できること。本企画は、哲学者と身近なテーマについて対話することから、PARA SHIFを起こすことを目指す哲学ゼミだ。

第1夜「やる気と元気」では、フランスの哲学者ジル・ドゥルーズの「生成変化」の概念から、「やる気のない状態」からこそ発生する創造性について学び、やる気を強制される昨今の構造的な問題について対話を繰り広げた。

第2夜「作品と広告」では、現代美術の変遷を辿りながら、接近する作品と広告の関係について学び、社会制度や作者の権威・意図に還元されない新たな作品との連関をめぐり活発な議論が展開された。

哲学対話が各々の固定化された（既知）に揺らぎを生み、変わる（喜知）を体験する機会となることを願いたい。



変化のプライバシーと照れ笑い

Extra Note

自分が経験したパラダイムシフト、つまり大きな価値観の変容について、という依頼なのだが、僕じしんは変わることがバレルことがなぜか嫌いだ。散髪に気づかれるとちょっと気恥ずかしいというようなことは誰しもあるように思うので、それと同じことなのかもしれない。

それにしてもなぜ変化をそれとして指差されたくないのだろう。われわれが個人として経験するもっとも大きな変化は生まれることと死ぬことだが、そのふたつに挟まれるようにして、就学、卒業、就職、結婚、妊娠などの「ライフイベント」が社会のなかでのわれわれの立ち位置の変化を刻む。変化を悟られることが嫌いなのは、こうした「社会のなかでの変化」のどこかが嫌いであることとつながっている。

社会のなかでの変化はつねになんらかの道徳的な義務とくっついている。もう子供じゃないんだから、とか、この会社で働くからには、とか、そろそろ結婚しないと、とか。こうした変化は人生をひとつの標準的な直線との距離によって測るための指標となる。共有されるあらゆる変化は通過

儀礼でありそこには適齢期がある。人生はそうした変化とそれをめぐる因果によって拘束されている。

拘束、と強い言葉を使ったのは、こうした種類の変化は「本当の変化」を抑圧しているのではないかと考えているからだ。ドゥルーズという哲学者は、あらゆる生成変化は「知覚不可能なものへの生成変化」に通じていると言った。なにが別のものになることの根底には、その基盤として知覚されないものになることが横たわっている。人生を共有可能なステップに分割する社会は、生成変化の知覚不可能な次元を払い除ける。変わることがバレルのは共有されたタイムラインに無理やり乗せられるようなものだ。

しかしバレルことには、たんに嫌というのとは別の、「照れ」のようなものをともなう場合がある。当人のあいだだけで共有され保護される変化のプライバシーと照れ笑い、これこそが「社会」に還元されない親密さの定義なのではないだろうか。

福尾匠（ふくお・たくみ）

1992年生まれ。専門は現代フランス哲学、芸術学、映像論。デビュー作となった『眼がスクリーンになるとき：ゼロから読むドゥルーズ「シネマ」』（フィルムアート社）が紀伊国屋じんぶん大賞2019で上位となるなど、今最も注目される若手の哲学者・批評家のひとり。

DATA

哲学対話 PARA SHIF パラシフ[やる気と元気]

開催日時 2020年2月15日(土) 18:30~21:30

参加人数 23名

哲学対話 PARA SHIF パラシフ[作品と広告]

開催日時 2020年2月22日(土) 18:30~21:30

参加人数 17名

会場 Cafe Mame-Hico(カフェ マメヒコ) 三軒茶屋店

講師 福尾匠(哲学者・批評家)

参加費 各回4,000円(コーヒー・ケーキ付)

1.レクチャーに耳を傾ける参加者 2.講師の福尾匠氏 3.コーヒープレイク後の全体対話 4.講師に質問をする参加者



NPO・市民活動のためのステップ・アップ講座

組織づくりのためのヒント／コツを学ぼう!!〈広報編〉

市民活動を支援する目的で毎年開講している本講座。今回は、「広報」をテーマに4回開催した。スマートフォンが普及によって個人による情報発信が容易になった一方で、「フェイクニュース」に象徴されるように、情報に対する信頼性も揺らいでいる現在、市民団体による広報活動で考えるべきことは何だろうか。

第1回、第2回で講師を務めた谷浩明氏は、非営利組織に特化した広報支援を行っている専門家だ。講座では、広報の軸となる考え方を提示し、その上で受講者が用意したチラシを実際に添削・講評も行い、実践的なテクニックも学ぶことができた。

第3回、第4回では、講師のこくぼひろし氏から広報に関する手法を学んだ。広報の人手不足が課題となる活動団体において、「ひとり広報」で提案された内容には多くのヒントがあったに違いない。いずれの講座も、非営利組織における「広報」についてじっくり考える貴重な機会となった。

情報の受け手を考える、PRの本質

市民活動を支援する目的で毎年開講している本講座。今回は、「広報」をテーマに4回開催した。スマートフォンが普及によって個人による情報発信が容易になった一方で、「フェイクニュース」に象徴されるように、情報に対する信頼性も揺らいでいる現在、市民団体による広報活動で考えるべきことは何だろうか。



DATA

第1回:「伝わる」広報の基本とチラシづくりのコツ!

開催日時 2019年12月3日(火) 19:00~21:30

講師 谷浩明(コミュニケーション・デザイナー、杉並区広報専門監)

参加人数 19名

第2回:みんなの「伝わる」チラシクリニック!

開催日時 2019年12月17日(火) 19:00~21:30

講師 谷浩明

参加人数 11名

第3回:「ひとり広報」実践講座

開催日時 2020年2月4日(火) 19:00~21:30

講師 こくぼひろし(ひとしずく株式会社代表)

参加人数 18名

第4回:非営利PR戦略ゼミ〜「伝える」ことがすべてではない

開催日時 2020年2月12日(水) 19:00~21:30

講師 こくぼひろし

参加人数 11名

会場 セミナールームAB

参加費 各回1,000円

共催 世田谷区 生活文化部 市民活動・生涯現役推進課(第1、2回)

企画進行 株式会社世田谷社

1. 講師の谷浩明氏と学ぶ広報の役割
2. チラシクリニックでは、受講生のチラシを添削・講評
3. 講師のこくぼひろし氏
4. グループに分かれて考えるPR戦略



インス編集学校×生活工房 情報編集力連続講座

新しい時代を楽しむ「自分らしさ」の編集術

本講座はインターネット上に開講されている「インス編集学校」との共催。そこで学ばれている基本的な「情報編集のプロセス」の一端を体験学習する。6回目となる今回は「自分らしい情報」の編集術を学んだ。

どんな情報も「編集」することで新しい価値が生まれる。例えば、昨日の出来事を家族に話すことも、文書や企画書を作成することも、結婚式などの行事の段取りを決めて披露することも、いわば自分なりの情報編集といえる。

参加者は、「自分」という情報にフォーカスして、過ごしてきた時代の「年表づくり」や当時の「お気に入りのモノや本」など、各々が多様な視点で収集した情報をキーワードで分析する。自由な発想で情報を組み合わせることで、思いがけない関係性や新しい見方を見付けることができた。グループでのワークショップでは、相手により伝わる表現に挑戦。自分の言葉で伝えることの楽しさと難しさを同時に実感した2日間となった。

自由な発想で、「自分」を言葉で表現してみる



DATA

開催日時 2020年2月16日(日)・23日(日) 各日14:00~17:00

会場 セミナールームAB

参加人数 35名

参加費 5,000円(3回分)

共催 インス編集学校

*新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、第3回目の講義は中止とした

1. 参加者が持ち寄った品々が机に並び
2. 講師の衣笠純子氏
3. 年表づくりの様子
4. 参加者同士の会話が弾む



朗読講座 豊かなことばの世界

「ことば」の美しい響き

ことばの力や豊かさを、朗読を通して味わう講座。声の出し方や読み方のポイントであるNHK日本語センターのアナウンサーが講師となり、朗読の基礎から応用まで、少人数のクラスで丁寧に指導してきた。

近代から現代までの日本文学の名作たちを題材にしながら、「ことばの豊かさ」を声で表現することを目指した。

取り上げた作品

- 山本一カ 「あかね空」
- 谷崎潤一郎 「細雪」
- 芥川龍之介 「蜘蛛の糸」「杜子春」
- 梶井基次郎 「檸檬」
- 角田光代 「ロック母」
- 清水義範 「バスが来ない」
- 新美南吉 「おじいさんのランプ」
- 浅田次郎 「鉄道員」
- 川上弘美 「運命の恋人」
- 宮沢賢治 「なめとこ山の熊」
- 内館牧子 「十二単衣を着た悪魔」



講座の様子

DATA

開催日時 年4回(4月期、7月期、11月期、2月期)
各4講座(水曜午前・午後、木曜午後、金曜午後)

会場 セミナールームA
講師 一般財団法人NHK放送研修センター-日本語センター

参加人数 696名
参加費 20,500円(4回分)、アーツカード会員は18,500円(消費税の改定に伴い2020年2月期からそれぞれ300円増額)

共催 一般財団法人NHK放送研修センター-日本語センター
*新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、朗読発表会は中止とした

世田谷アートフリマ

春と秋に開催される『世田谷アートフリマ(Art Flea Market II アートのみの市)』。今年もたくさんの人たちで会場は賑わいをみせた。

2002年にスタートしたアートフリマは、地域密着型のイベントとして、世田谷にゆかりのあるアーティストを中心に出展者を募っている。アーティストがオリジナルの作品を発表する場であるとともに、来場者には「もの」を通して「世田谷の魅力」を再発見できる場としても人気である。

会場には、ハンドメイドのアクセサリー、手芸の帽子、革細工の財布、ポップなイラストのポストカードなど、個性豊かな作品のブースが並ぶ。地元のパン屋さんの出店や気軽に楽しめるワークショップやスタンプラリーは子どもたちからも好評だ。

出展者は自分の作品を見てもらうことを楽しみ、遊びにくる人は自分のお気に入り目当てに散策を楽しむ。そんな嬉しい出会いがたくさん生まれる、ものづくりの祭典である。

つくる楽しみ、みつける楽しみ



DATA

開催日時 [vol.31] 2019年4月20日(土)・21日(日) 11:00~17:00
[vol.32] 2019年9月21日(土)・22日(日) 11:00~17:00
会場 ワークショップルームAB、セミナールームAB、市民活動支援コーナー
来場人数 [vol.31] 約4,000名
[vol.32] 約4,500名
共催 世田谷アートフリマプロジェクト
協力 世田谷233

1.会場はたくさんの人で賑わった 2.子どもに人気のワークショップ 3.館内をスタンプラリーでも楽しむ 4.新聞紙でつくられた恐竜、この迫力!

おはなしいっぱい

区内で活動する、おはなしの会が大集合!

「世田谷おはなしネットワーク※」との共催で、毎年3日間のおはなし会「おはなしいっぱい」と2回の講演会を開催している。

おはなし会は、構成、出演、準備のすべてを市民が行う手作り企画として回を重ね、多くの親子連れで賑わう夏の恒例イベントとなっている。

第19回目の開催となった今年は、幼児から小学生まで対象年齢を分けた幅広いプログラム構成で、紙芝居、すばなし、手あそび、わらべ唄、パネルシアターなどの多彩な上演を行い、会場は大いに盛り上がった。特別ゲストとして東京都江東区で活動する市民グループも招き、地域を超えた交流が行われた。

本企画は、区内で活動する読み聞かせの会が連携して開催することで、参加グループ同士の交流やこれまでの活動で培われた運営ノウハウを伝え合いながら、市民活動のさらなる活性化を目指している。

※1997年活動開始。世田谷区内で活動する複数のおはなしの会が連携し、図書館などで活動中。現在、60のグループ、個人会員から成る。

DATA

開催日時 2019年8月21日(水) 11:30~15:00、22日(木)・23日(金) 11:00~15:00
会場 ワークショップルームAB
出演 18グループ
来場人数 1,452名
共催 世田谷おはなしネットワーク
協力 世田谷区立中央図書館、世田谷区立児童館

〈関連企画1〉

講演会「わらべうた絵本と私~ましませつこさんの世界」
開催日時 6月13日(木) 10:00~12:00
会場 セミナールームAB
講師 ましませつこ(絵本作家)
参加人数 118名
資料代 100円

〈関連企画2〉

講演会「ブックトークPart2~子どもと本との出合いの場をつくる」
開催日時 11月19日(火) 10:00~12:00
会場 セミナールームAB
講師 青木淳子(元学校司書)
参加人数 81名
資料代 100円



1.大勢の来場者で賑わう会場 2.世田谷おはなしネットワークの活動記録 3.児童館の子どもたちによる発表 4.パネルシアターを楽しむ子どもたち

世田谷市民活動支援会議



「私たちにできること・できたこと」(写真提供:せたがや防災NPOアクション)

DATA

他の構成団体 世田谷区生活文化部市民活動推進課、社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会、一般財団法人世田谷トラストまちづくり、社会福祉法人世田谷ボランティア協会、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会、NPO昭和、NPO法人まちこらぼ

第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”



5部門と合同で開催した授賞式の様子

DATA

「世田谷区芸術アワード“飛翔”とは 世田谷区とせたがや文化財団が、若手アーティストの多彩な文化・芸術活動の支援を目的に制定した芸術賞。5部門からなり、生活工房は、生活デザイン部門を担当する。募集と受賞記念発表を隔年で行い、受賞者には創作支援金と翌年度の発表の機会が提供される。

共催 世田谷区
募集期間 2019年5月25日(土)～9月6日(金)
応募件数 6件(生活デザイン部門)
表彰式 2020年2月8日(土)
会場 世田谷区役所プライトホール
発表展示 2020年10月、生活工房ギャラリーにて開催予定

今回、生活デザイン部門では、審査員にプロデューサーの金森香氏とグラフィックデザイナーの高田唯氏を招き、「生活」をテーマにした展覧会企画を募集した。受賞に輝いたのは、「あの海は山のように」(代表 椎木彩子氏)による《未来に伝えるせたがや今ばなし》だ。区民からメンバーを募集しフィールドワークや写真・詩・ものづくり・身体のワークショップを行い、そして絵本を制作・展示するプラン。私たちの現在の暮らしからどんな物語が生まれるのか。2020年秋に予定している展覧会をどうぞご期待ください。

若手アーティストの支援企画

より良い地域社会を目指して

世田谷ではNPOやボランティア団体など、さまざまな市民活動団体が盛んに活動している。「世田谷市民活動支援会議」(通称「ネット」)はより良い地域社会を作るための市民活動を支援する会議体で、行政である世田谷区と、施設や助成金の提供など多様な形で活動を支える中間支援団体で構成されている。本年度は2回の連絡会議のほか、せたがや防災NPOアクション主催の「私たちにできること・できたこと」台風19号の情報共有と今後のネットワークのあり方を考える」に参加し、災害時の連携についてさまざまな立場から議論を深めた。

市民活動支援コーナー

幅広い分野の市民活動団体をサポート

市民活動支援コーナーは、世田谷区内でさまざまな活動を行っている市民活動団体が登録し、利用する「活動の場」である。2020年1月末現在、登録数は903団体を数える。日常的な打ち合わせや講座などに活用できるほか、印刷機や大判プリンターも設置され、幅広い団体の活動情報も掲示・配布している。

同コーナーでは作業スペースや機器の貸出業務だけでなく、利用団体同士の交流促進や、一般の方たちへの認知度向上などを目的とした「市民活動活性化事業」も行っている。今年も、「三茶de大道芸」の2日間に合わせて「パオフェスタ2019」を実施。2007年より開催しているが、今年度は過去最高の23団体が参加。子どもも参加しやすいような雰囲気を感じたこと、会場では幼児を連れた家族の姿が目立った。また、この場所をより多くの方が利用できるよう検討を重ね、3月中旬より改修工事を行った。2020年4月にリニューアルオープン予定。

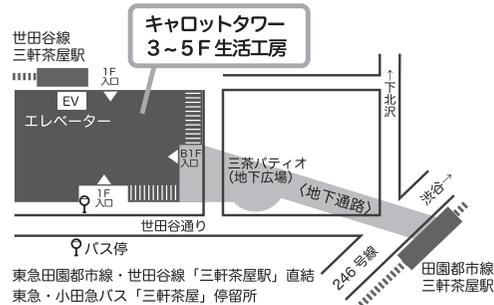


DATA

場所 生活工房3F
開館時間 9:00～21:00(月曜休館)
*2020年3月16日から4月6日まで改修休館
委託先 特定非営利活動法人国際ボランティア協会(IVUSA)
来場人数 19,630名
〈関連企画〉
パオフェスタ2019 市民活動体験喫茶パオ
開催日時 10月19日(土)、20日(日) 11:00～18:00
会場 市民活動支援コーナー
参加団体 23団体
来場人数 607名

1. パオスペースでのワークショップ 2. 大判印刷もできるプリントアウトスペース 3. 支援コーナー全景





生活工房へのアクセス

休館日・管理休館日：年末年始・月曜日（祝日の場合は除く）
 所在地：東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
 TEL：03-5432-1543 URL：<http://setagaya-ldc.net/>

生活工房のホームページでは、僕たちが施設の案内をしているよ。ぜひみてね！

クラシー
カワルン

トップページ→施設のご案内→クラシーとカワルンの「生活工房っていったいどんなところなの？」

生活工房は、地域の人々の活動や発表の場！

生活工房では多彩な設備を備えたスペースで独自の企画を行うほか、市民団体などにお部屋を貸し出しています。スペースごとに登録条件・利用方法などが異なりますので、詳細はお問い合わせください。

生活工房 施設ガイド Floor Guide



セミナールーム A 貸出対象スペース
74m² / 定員48名 / 利用時間9:00~22:00



セミナールーム B 貸出対象スペース
83m² / 定員48名 / 利用時間9:00~22:00



講演会やミーティングに最適

「セミナールーム」は、講習会や会議に適したスペースです。プロジェクターを含む映像・音響設備も備え、効果的なプレゼンテーションが可能です。A・B各部屋の可動式間仕切りを外せば最大で120名（机椅子使用時は108名）まで収容できます。

5F



ワークショップルーム A 貸出対象スペース
126m² / 定員50名 / 利用時間9:00~22:00



ワークショップルーム B 貸出対象スペース
145m² / 定員50名 / 利用時間9:00~22:00

ものづくりや展示を楽しむ

「ワークショップルームA」は、ものづくりやトークイベントに対応したスペースで、併設されたキッチン（63m²）には、各種厨房用品も備えています。多人数の交流会にも最適です。「ワークショップルームB」は、扇形の壁面が特徴的な展示スペースです。可動パネルで室内のレイアウト変更ができ、多様な展示が行えます。音響や映像機器を使った集会等の開催も可能です。

4F



生活工房ギャラリー
開館時間9:00~21:00



市民活動支援コーナー 貸出対象スペース
利用時間9:00~21:00

生活工房の展示や市民活動の拠点

「生活工房ギャラリー」は、暮らしのデザインやクラフト、異文化紹介などをテーマに、生活工房が主催する企画展示を行っています（一般への貸出はしていません）。「市民活動支援コーナー」は、世田谷で活動している市民活動団体が打ち合わせや作業を行うことができるスペースです。パソコンや印刷機などの利用も可能です（有料）。

3F

Repeater's Voice

リピーター会議の声

生活工房では毎年モニター調査を実施して、来場者の声を収集し、事業に活かしていくための取り組みをおこなっています。
今回は、30～50代の男女13名に集まっていただき、生活工房のリピーター会議を開催しました。
ここではリピーター視点のコアな生の声を、抜粋して紹介します。

生活工房の好きなところは？

- ・着眼点のおもしろいテーマが感じられる
- ・生活を日常生活という半径5m?の視点で小さくまとまるのではなく、例えば最近の「日常を見限らない」、「パラシフ」のようにその奥にひそむ深さへ探究するフレキシブルさ、いいです
- ・生活のちょっとしたことが豊かさだと気づかされる
- ・世界的なことから地域的なことまで取り上げている
- ・スタッフが好意的
- ・企画やテーマが日常、生活、身体、感情に根ざして頭でっかちでない
- ・世田谷のなつかしい風景がみられる「穴アーカイブ」の企画
- ・あたたかい問題意識を投げかけるところ
- ・映像のフィールドワーク展が最高でした
- ・見て聞くだけでなく体験できる
- ・いつも展示がカッコいい(展覧会「家族って」とか)
- ・センスがよいところ(例えば「14歳のワンピース」)
- ・知らない世界や習慣が楽しく知れる
- ・ポスター、チラシがカッコいい

生活工房に何を求める？

- ・知的、文化的なもの、ことを見聞きたい
- ・知りたいことが知れる
- ・ワークショップの参加するハードルが低くていい
- ・いろいろな発表とWSもあったり参加型がいい。今後にも期待!
- ・わかったつもりだったけどわからないことに出会う
- ・いつもとは違った背景を持った人と出会える
- ・非日常、いつもと違ったことができる
- ・能動的に参加したくなる
- ・知的好奇心

他の施設とくらべてどこが良い？

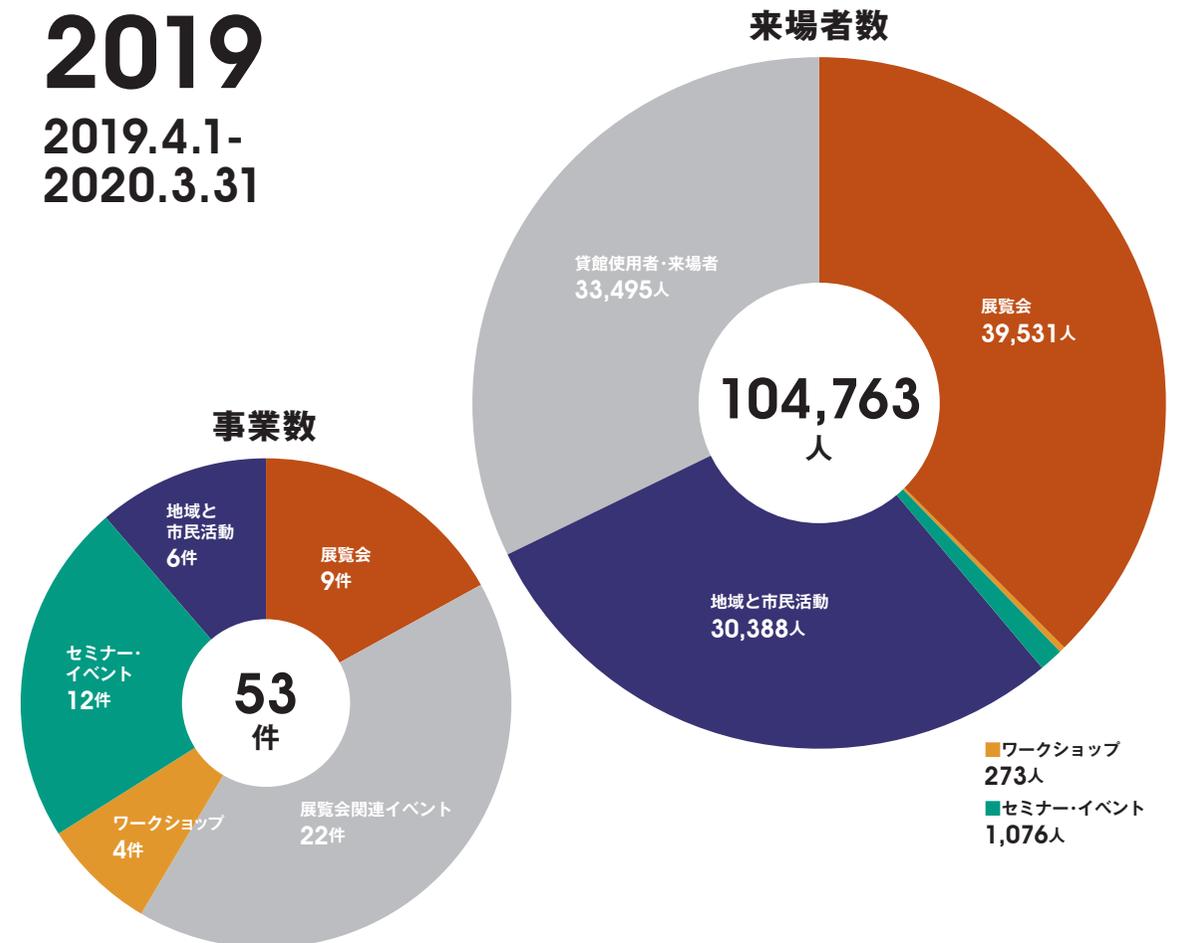
- ・体験型展示が多い
- ・アクセスの良さ
- ・テーマが多様なので、バラエティーに富んでいる
- ・商業地域のなかにあつていろいろ用を足しながら見られる
- ・融通がきく。柔軟性がある
- ・レベル、センスが高いのに無料(安価)(心配になります)
- ・市民活動支援コーナーがマニュアル通りじゃない。サービスっぽくないところがちょうどいい
- ・外にひらかれている
- ・気軽に入れる

日時:2019年12月7日(土)13:30~15:30
会場:生活工房5階 セミナールームB
参加人数:13名
参加条件:生活工房に3回以上来館したことのある方

Database

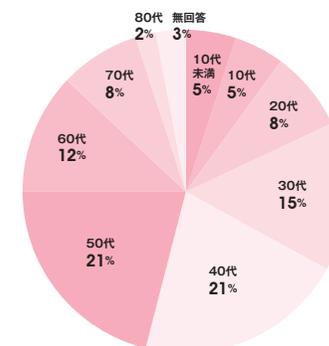
数字で見る生活工房

2019
2019.4.1-
2020.3.31



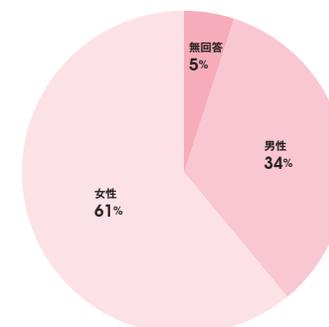
来場者の年代

40-50代の方がどちらも2割を超え、今年度の主な来場者層となりました。10代の参加者も増加しています。



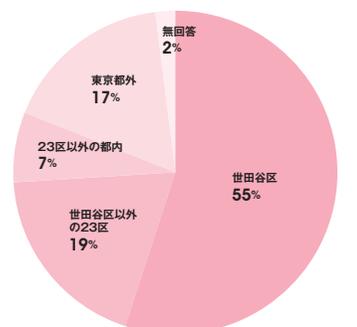
来場者の男女比

男性の来場が年々増加傾向にあり、特に「世田谷線にのって」展、「くすわる」を旅する展」では男性のほうが多く来場されています。



来場者の住まい

世田谷区外からのご来場が半数近くを占めています。そのほかの割合とともに、ここ数年大きな変化はありません。



2019年度来場者アンケート(2019年4月1日-2020年2月22日)1,704件のデータより



火と人の上映会 vol.1&2
 デザイン:といきデザイン事務所
 東京スーダラ2019—希望のうたと舞いをつくる
 デザイン:佐藤豊

火と人の上映会 vol.3&4
 デザイン:といきデザイン事務所
 プレーバック、プレイパーク! 遊び場をめぐる冒険
 デザイン:中島美佳



日常を見限らない 匂いのワークショップ
 デザイン:福岡南央子

Flyer Gallery

フライヤーギャラリー

撮影:池田晶紀+池ノ谷侏花(ゆかい)

2019 7.20(土) - 9.1(日)

トルコ トカットの木版(バスク)

Woodblock printing "Baski" of Tokat Province in Turkey

9:00 - 21:00
月曜休み(祝日除く) 入場無料
生活工房ギャラリー
三軒茶屋 キャロットタワー3階

木版 バスク

哲学対話 PARA SHIF ハラシフ

PARA SHIF

福尾 匠

2020. 2.15 ± 2.22 ± 18.30-21.30

AT Cafe Mama Hico 三軒茶屋店

プライベートコレクション展 Private Collection

2019年6月15日(土) - 7月15日(日) 9:00-21:00 Sat. 15 June - Sun. 15 July, 2019 9:00-21:00

生活工房ギャラリー(三軒茶屋) 三軒茶屋 キャロットタワー3階

Sekatsu Kobo Gallery (Of Canal Tower, Sangenaya)

2019年6月15日(土) 入場無料 Closed on Monday (Sep 9 Oct 2019) Admission Free

誰かの家、誰かの作品。 Someone's Artwork in Someone's House.

新しい時代を楽しむ「自分らしさ」の編集術

生活工房 X ISIS

2005 平成17年
2010 平成22年
2019 令和元年
2000 平成12年
2002 平成14年

情報編集力連続講座

2020年 2.16 @ / 2.23 @ 生活工房SF セミナールームAB (三軒茶屋 キャロットタワー) 3.8 @ インス編集学校 (1F 本館 はんぐら)

各日とも14:00-17:00 ※全3回連続 参加費/5,000円(全3回分) 定員/40名(申込先着順)

主催:公益財団法人せがや文化財団 生活工房/インス編集学校 後援:世田谷区/世田谷区教育委員会

トルコ・トカットの木版(バスク)展
デザイン:阿部智佳子

プライベート・コレクション展
デザイン:Tanuki

哲学対話 PARA SHIF
デザイン:福岡南央子

情報編集力連続講座 新しい時代を楽しむ「自分らしさ」の編集術
デザイン:緒方志郎(緒方デザイン事務所)

家族って しまおまほと家族、
その思い出と金庫

The Essence of Family

2019年9月21日(土) - 11月10日(日)

月曜休み(祝日はのぞく) 9:00-21:00 入場無料
生活工房ギャラリー(三軒茶屋) キャロットタワー3階

Sekatsu Kobo Gallery (Of Canal Tower, Sangenaya)
Sep. 21 (Sat.) - Sun. 10 Nov. 9:00-21:00 Admission Free
Closed on Mondays (except Public Holiday)

生活工房
www.setagaya-ldc.net

祝! 世田谷線 50周年

世田谷線 50周年

2019年 4月27日(土) ~ 5月26日(日)

9:00 ~ 20:00 会期中無休

生活工房ギャラリー
(三軒茶屋) キャロットタワー3階 入場無料

主催:公益財団法人せがや文化財団 生活工房
協力:東京都市大学(世田谷区立) 世田谷区立図書館 世田谷区立歴史民俗資料館 世田谷区立総合文化センター 世田谷区立中央公民館 世田谷区立中央図書館 世田谷区立中央公民館 世田谷区立中央図書館 世田谷区立中央公民館 世田谷区立中央図書館

世田谷区 芸術アワード “飛翔”

第6回

生活デザイン 部門

若手アーティストを 奨励・支援する 芸術賞

2019年 5月25日 - 9月6日

対象分野 [生活]をテーマにした作品の展覧会企画
生活工房のネットワークを通じてある生活工房の「暮らし」をテーマとした、オリジナルの展覧会(企画、企画、デザイン、制作、展示)の企画立案を募集します。

生活工房
www.setagaya-ldc.net

84 volumes of 8mm film, 12 oral histories.

2020年3月14日(土) - 4月5日(日)

生活工房(三軒茶屋) キャロットタワー3階
生活工房(三軒茶屋) キャロットタワー3階
入場無料

穴アーカイブ: an-archival
世田谷の8ミリフィルムにさぐる 展覧会

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

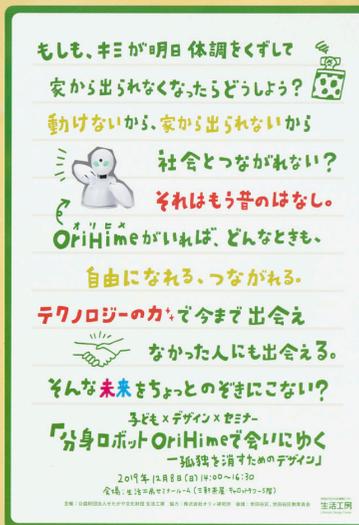
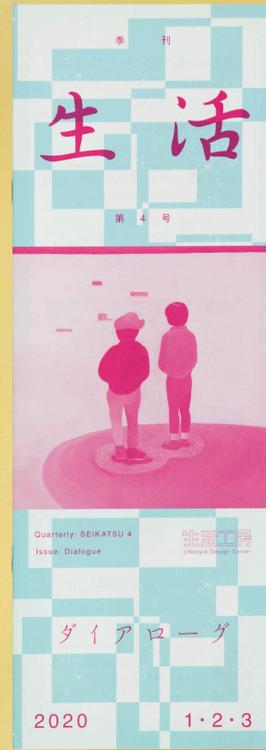
生活工房
www.setagaya-ldc.net

家族って しまおまほと家族、その記憶と記録
デザイン:溝端真(ikaruga.)

第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”生活デザイン部門
デザイン:浦川彰太

祝! 世田谷線50周年 世田谷線にのって展
デザイン:鈴木友唯

穴アーカイブ an-archival 世田谷クロニクル1936-83
デザイン:カラマリ・インク イラスト:ナガノチサト



夏の子どもワークショップ2019
 デザイン: 柴山修平 イラスト: 伊藤眸
 季刊生活 創刊号-第4号
 デザイン: 牧寿次郎
 分身ロボット OriHime で会いにくく一孤独を消すためのデザイン
 デザイン: 鈴木友唯
 〈すわる〉を旅するーアジアとアフリカの、あの坐り方と低い腰かけ
 デザイン: 片山中蔵

生活工房

2020年度事業(4~6月)のご案内

4月11日(土)ー26日(日)

世田谷アートフリマつながり展2020

5月2日(土)ー7月12日(日)

春日明夫コレクション

アメリカン・トイズ since1920's

—暮らしと時代を映す玩具展

6月23日(火)

第46回世田谷おはなしネットワーク講演会

絵本と紙芝居と私

※詳細はホームページをご覧ください。



ご支援・ご協力いただいた企業、団体、
教育・公共機関等(各50音順・敬称略)

共催

イシス編集学校、(一財)NHK放送研修センター日本語センター、
NPO法人国際ボランティア学生協会、世田谷アートフリマプロジェクト、
世田谷おはなしネットワーク、世田谷区、世田谷区 生活文化部 市民活動・
生涯現役推進課、東京都、(公財)東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京、
remo[NPO法人記録と表現とメディアのための組織]

協力

NPO法人アートフル・アクション、青森公立大学 国際芸術センター青森、(一財)NHK放送研修センター、(株)オリィ研究所、諧林招、Cafe Mame-Hico (カフェ マメヒコ) 三軒茶屋店、(株)かまわぬ、京都市文化市民局文化財保護課、国際あやとり協会、(公財)下中記念財団、昭和のくらし博物館、女子美術大学芸術文化ゼミ I (芸術人類学)、世田谷おはなしネットワーク、世田谷区立児童館、世田谷区立中央図書館、世田谷233、そふと電鉄クラフト株式会社、TSUTAYA三軒茶屋店、(株)東京かんかん、東急電鉄株式会社、東京工芸大学芸術学部ソフトウェアデザイン研究室、(株)東京シネマ新社、新島村博物館、NPO法人FENICS、認定NPO法人プレーパークせたがや、HOSPITALE PROJECT、(株)ゴレボレ東中野、水戸芸術館現代美術センター、(一社)民族文化映像研究所、武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科齋藤啓子研究室、柳とあそぼう引地川、(株)ゆかい、立教大学現代心理学部映像身体学科

後援

世田谷区、世田谷区教育委員会、駐日トルコ共和国大使館、日本・トルコ協会、
日本トルコ文化協会、特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会

助成

公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団

生活工房アニュアルレポート2019

発行日:2020年4月24日

編集協力:杉本勝彦

デザイン:溝端貢(ikaruga.)

イラスト:しまおまほ(p2-13)、クボタノブエ(p22-23, 25, 27, 45, 49, 51, 53)

印刷:三永印刷株式会社

協賛:株式会社東急コミュニティー

編集・発行:公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

〒154-0004東京都世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー

電話:03-5432-1543 ファックス:03-5432-1559

メール:info@setagaya-ldc.net

https://www.setagaya-ldc.net

本書の無断転写、複製、転載を禁じます。

©Setagaya Arts Foundation Lifestyle Design Center 2019-2020

Printed in Japan

生活工房アニュアルレポートとは——

生活工房の1年間の活動をまとめた記録・報告書です。